

MxManagementCenter

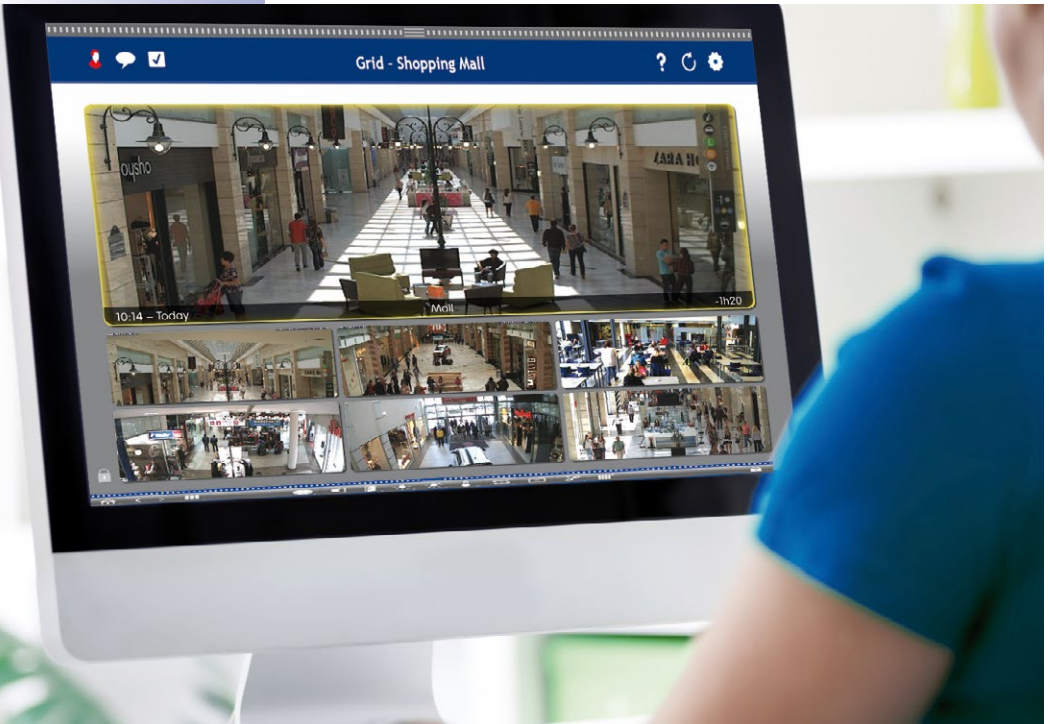


ビデオ管理の新たな金字塔

ドイツのクラフトマンシップが息づくイノベーション

ドイツの企業MOBOTIX AGは、ネットワーク・カメラ技術のバイオニアとして知られます。独自の着想による分散アーキテクチャの採用で、高解像度ビデオ・システムのコスト・パフォーマンスを向上することに成功しました。

MOBOTIXAG・D-67722Langmeil・電話: +4963029816-103・Fax: +4963029816-190・sales@mobotix.com



MOBOTIXセミナー

MOBOTIXは、ワークショップ、実践的な講習など、各種のセミナーを手頃な料金で提供しています。詳細については、www.mobotix.com > **セミナー**をご覧ください。

著作権情報

All rights reserved. MOBOTIX, MXロゴ, MxManagementCenter, MxControlCenter, MxEasy, およびMxPEGは、EU、米国、およびその他の国におけるMOBOTIX AGの登録商標です。Microsoft, Windows, およびWindows Serverは、Microsoft Corporationの登録商標です。Apple, Appleロゴ, Macintosh, OS X, iOS, Bonjour, Bonjourロゴ, Bonjourアイコン, iPod, およびiTunesは、米国およびその他の国におけるApple Inc.の登録商標です。iPhone, iPad, iPad mini, およびiPod touchは、Apple Inc.の商標です。その他記載されているマークや名称は、各社の商標または登録商標です。

Copyright © 1999-2015, MOBOTIX AG, Langmeil, Germany. 記載の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

目次

1	基礎	6
1.1	ビューの全般構造	6
1.2	カメラグループ	8
1.3	カメラグループバーとカメラバー	10
1.4	イベントバー	12
1.5	グリッドビュー	14
1.6	グラフィックビュー	16
1.7	複数のネットワーク環境の使用	18
2	主な特長	20
2.1	使いやすさを独自の着想で追求	20
2.2	カメラグループ	24
2.3	場所やビューを問わず常に情報を表示	26
2.4	プレーヤーを使った便利な検索と分析	28
2.5	グリッドプレーヤー – カメラグループ全体の確認	30
2.6	イベント・ヒストグラム – イベントの統計を簡単解析	31
2.7	MxPOS – POS (ポイント・オブ・セール) システムとの統合	31
2.8	保存画像へのアクセス – 簡単にカスタマイズ	32
2.9	インスタントプレーヤー – どこからでも確認	33
2.10	画像調整	34
2.11	パノラマ補正と自動フリップ	36
2.12	ユーザ管理	38
2.13	マルチモニター機能	40
2.14	ハイパーリンクサポート	42
2.15	ONVIFサポート	42
2.16	プラグイン: サードパーティ製品に対応したインターフェース	43
2.17	インテリジェント構成管理	44
3	詳細	46
3.1	システム要件	46
3.2	MxManagementCenterの初期設定	46
3.2.1	カメラの追加	46

3.2.2	カメラグループの作成	50
3.2.3	グループビューの設定	52
3.2.4	ユーザの追加	59
3.2.5	アラームメッセージ(ライブビュー)の設定	60
3.3	MxManagementCenterの通常運用	62
3.3.1	グリッドビューの操作	62
3.3.2	グラフィックビューの操作	67
3.4	MxManagementCenterの検索	72
3.4.1	アクセスモードの設定	72
3.4.2	プレーヤを使った検索と再生	73
3.4.3	グリッドプレーヤを使った検索と再生	79
3.4.4	検索ビューを使った検索と再生	80
3.5	録画のエクスポート	82
3.5.1	スナップショットの保存	82
3.5.2	録画のエクスポート	82
3.6	複数のネットワーク環境の使用	84
3.6.1	環境の作成	84
3.6.2	ネットワークデータの変更と環境の選択	85
3.6.3	帯域幅の一時的な調整	87
3.7	ドア・ステーションの操作	88
3.7.1	ドア・ステーションの設定	88
3.7.2	ドア・ステーションを運用する	91
3.8	プログラム設定	94
3.8.1	オプションの設定とデフォルト値の選択	94
3.8.2	プログラム設定の保存と読み込み	99
3.8.3	プライバシーモードの有効化/無効化	100



1 基礎

1.1 ビューの全般構造

カメラバー/カメラグループバー
 全てのカメラまたはカメラグループをソート機能で選択し、カメラやグループを切り替える。

ホームビュー

ビューの履歴
 進む/戻る

コンテキストに対応した
 ビュー選択

カメラおよびカメラグループの
 管理

機能ボタンとコントロール
 ボタン





カメラディスプレイエリア
 単独、グリッド別グループ、
 またはグラフィックビューに
 表示切替可能。

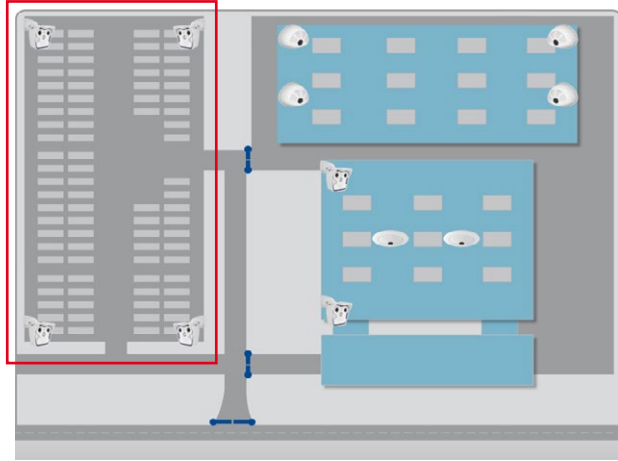
イベントバー
 全てのイベント録音を時系
 列で並べたリスト。

ハイパーリンク機能
 HTTP要求によるホームオートメーショ
 ンや気象情報Webサイトの表示など、
 あらかじめ設定された機能を実行する。

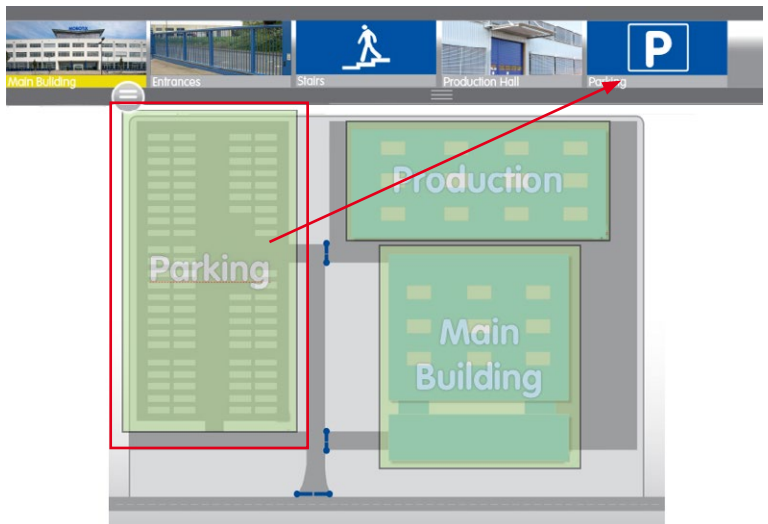
編集モード
 グリッドビュー、グラフィッ
 クビュー、またはインフォ
 ビューを示す。

1.2 カメラグループ

監視エリアは複数のエリアに分かれ、各エリアにカメラが配置されます。

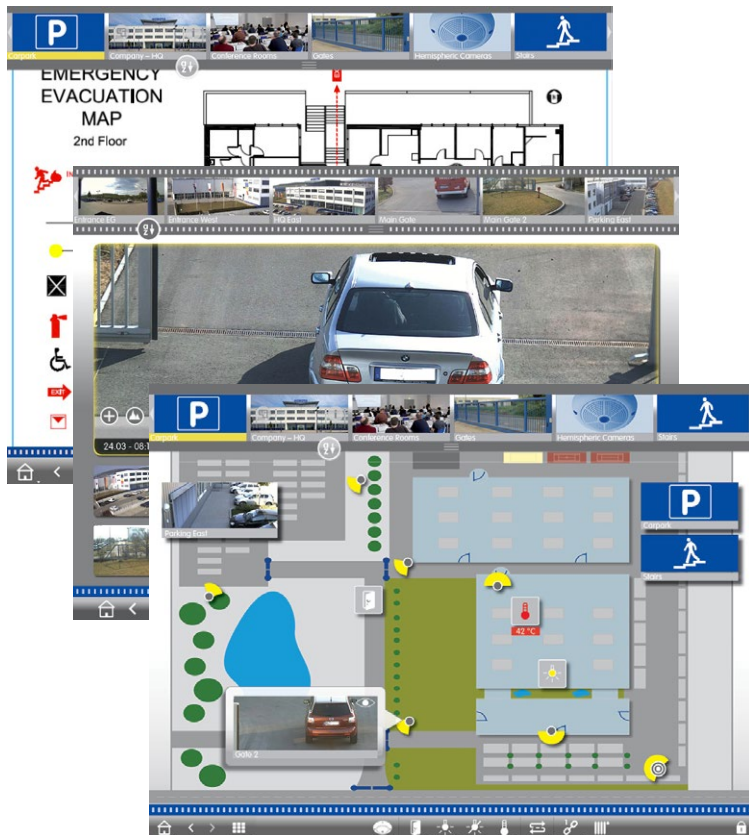


エリアのカメラは、グループビューに複数が表示されます。このビューを使って、現在の状況を一目で把握できます。



カメラ間を簡単に移動することができ、アラーム発生時は問題のカメラをすばやく映し出すことができます。

簡単にカスタマイズできるグラフィックビュー、グリッドビュー、およびインフォビュー
 ーを使って、カメラグループを表示できます。



インフォビュー

グリッドビュー

グラフィックビュー

1.3 カメラグループバーとカメラバー

カメラグループまたは特定のカメラを直接選び、ビューをすばやく切り替えます。

バーの表示

フレームをクリック/タップするとグループバーやカメラバーが開く。



表示のソート

アルファベット順または任意の順序でソート。

グループバーからカメラバーへ切り替え

フレームの上部をクリック/タップする。



表示のソート

アルファベット順、IPアドレス順、または任意の順序でソート。



カメラ画像

カメラ画像は参照画像で、カメラを追加したときに作成される。この画像を見ると、現在のエリアの明るさに関係なく、カメラを識別できる。

カメラグループバーとカメラバー

ビューの切り替え

マウスを重ねると、次のアイコンが表示される。

-  グラフィックビュー
-  グリッドビュー

グループの選択

シングルクリックするか、ドラッグして表示エリアにドロップする。

2番目のモニターに表示
ダブルクリック。



バーのサイズの調整

フレームの下部をドラッグする。

カメラの選択



シングルクリックするか、ドラッグして表示エリアにドロップする。

2番目のモニターに表示
ダブルクリック。



ビューの切り替え

マウスを重ねると、次のアイコンが表示される。

-  ライブビュー
-  プレーヤー




1.4 イベントバー

アラームの原因となったイベント（来客がチャイムを鳴らした、など）を表示します。イベントバーが表示されていない場合もこの機能は有効です。



ビューの切り替え

マウスを重ねると、次のアイコンが表示される。

-  グリッドビュー
-  プレーヤー
-  インスタントプレーヤー

インスタントプレーヤー



イベントバー

表示をフィルター

イベントタイプ別に
表示

ウィンドウと同サイズに最大表示
シングルクリック。

2番目のモニターにライブ画像を表示
ダブルクリック。



イベントの検知

バーが非表示の場合でも、新しいイベントが表示される。バーの色が、アラーム時は赤色に、呼び出しイベント時は緑色になります。

イベントバーを非表示

上部フレームの枠線を引
き下げる。

2番目のモニターに表示

ダブルクリックすると、イン
スタントプレーヤーが2番目の
モニターに開かれる。



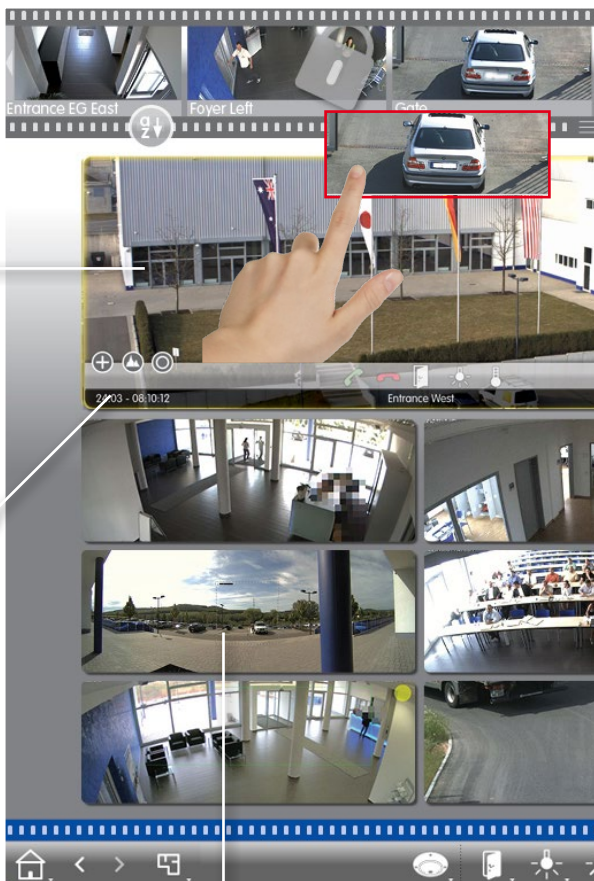
1.5 グリッドビュー

フォーカスウィンドウ

グリッドまたはカメラパーからカメラをドラッグして、フォーカスウィンドウにドロップする。

スイッチと制御の機能

フォーカスウィンドウ内のカメラを操作。

**ウィンドウと同サイズに最大表示**

カメラ画像をシングルクリック。

2番目のモニターに表示

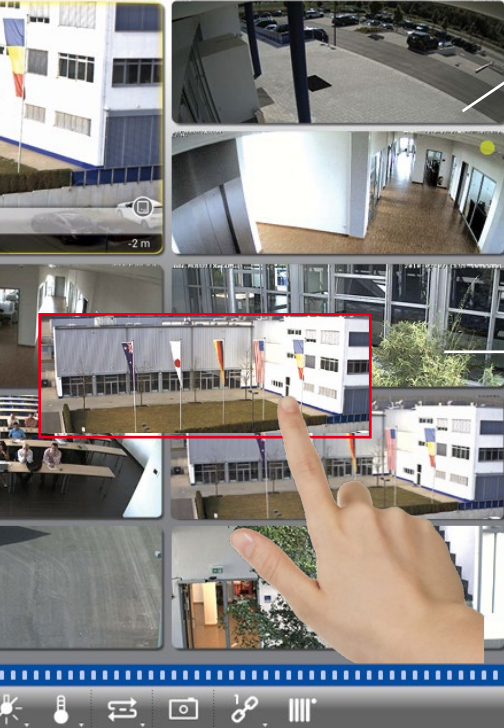
ダブルクリック。

カメラ/グループバー



イベントインフォバー

マウスをこのバーに重ねると、最新の25のイベント画像が表示される(マウスポインタをバーの上に移動する)



ライブ画像

このグループに含まれるカメラのライブ映像。

イベントバー
(非表示)



1.6 グラフィックビュー

帯域幅

表示中の画像のサイズ/画質を
時的に調整する。

見出し

カメラ/グループバー
(非表示)

平面/間取り図面

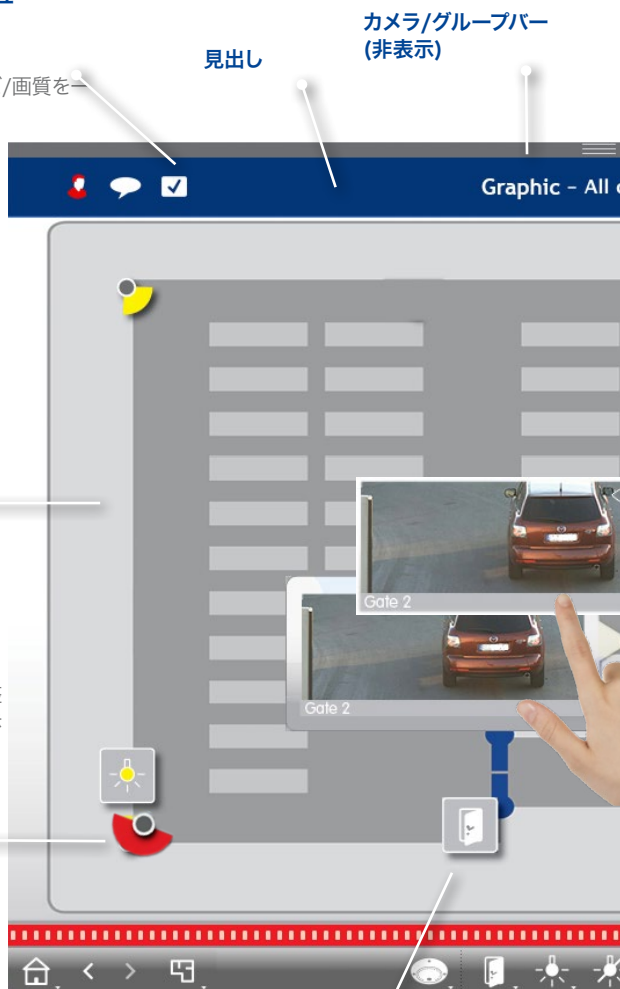
カメラは平面/間取り図面に
実際の配置のとおり
位置付けることができる。

カメラアイコン

カメラの視野角を調整
可能。イベント時に赤
色または緑色に変わる。

スイッチ機能

アイコンを使って、ドアを開くなど、機
能のスイッチを切り替える。また、状態
も表示する。この例ではドアが開いた
ままになっている。

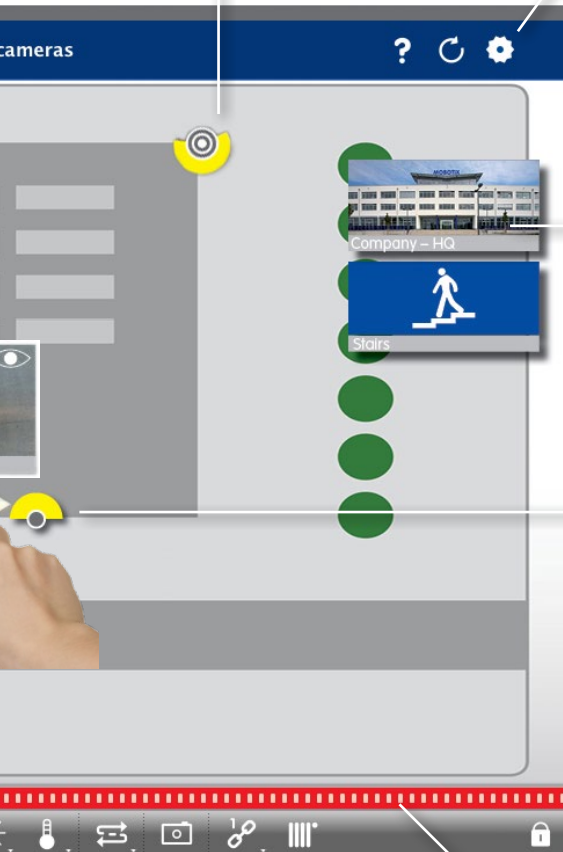


複数のカメラ

1地点(柱など)に複数のカメラが設置されていることを示す。

環境/プロジェクト

複数の場所から異なる帯域幅でカメラにアクセスし、プロジェクトの保存や読み込みを行えるように複数の環境を設定する。



カメラグループ

アイコンをクリック/タップすると、対応するグラフィックビューが表示される。

マウスを重ねてライブ画

像を一時的に表示するには、画像を図面上にドラッグ&ドロップする。

イベントバー(非表示)

赤色は、カメラがイベントを検出したことを示す。

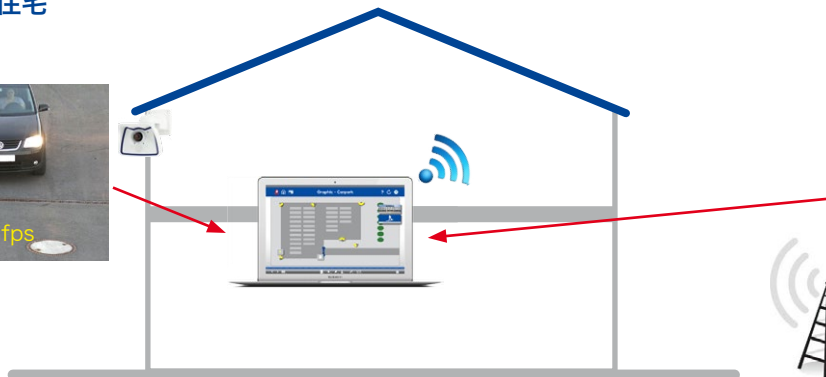
1.7 複数のネットワーク環境の使用

画像のサイズ、画質、およびフレーム・レートは、選択した環境に従って自動的に調整されます。この処理は、ライブビューに映されている映像とは関係なく、カメラ側で実行されます。同じことは、保存された画像にも当てはまります。保存された画像は、転送前にカメラ側でサイズが縮小されます。

住宅



高画質
住宅用カメラ

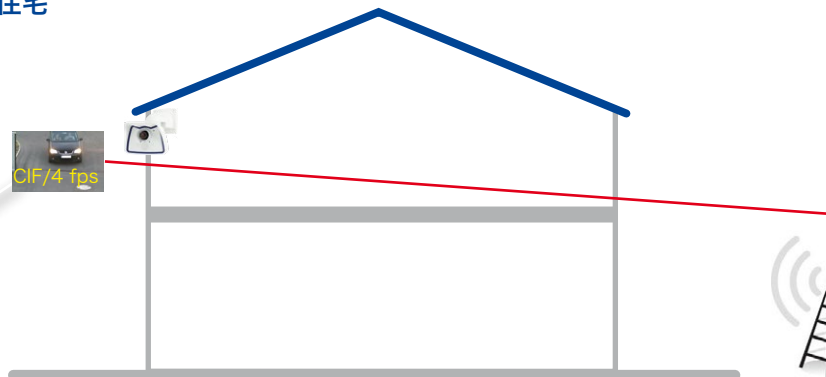


住宅からガソリンスタンドのカメラにDynDNSアクセスを使ってインターネット経由でアクセスし(低帯域幅)、住宅用カメラにダイレクトにアクセスする(高帯域幅)。

住宅



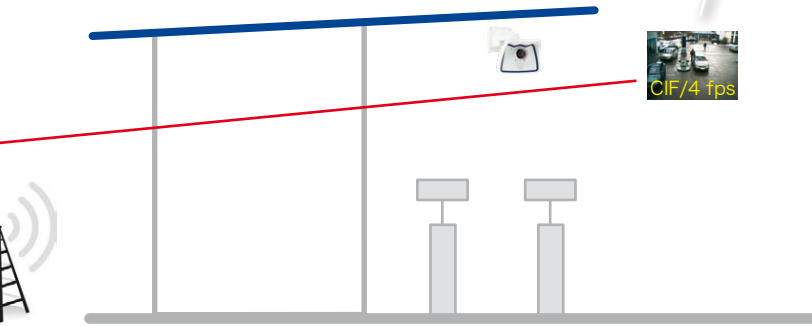
画質調整済みの
住宅用カメラ



ガソリンスタンドから住宅用カメラにDynDNSアクセスを使ってインターネット経由でアクセスし(低帯域幅)、ガソリンスタンドのカメラにダイレクトにアクセスする(高帯域幅)。

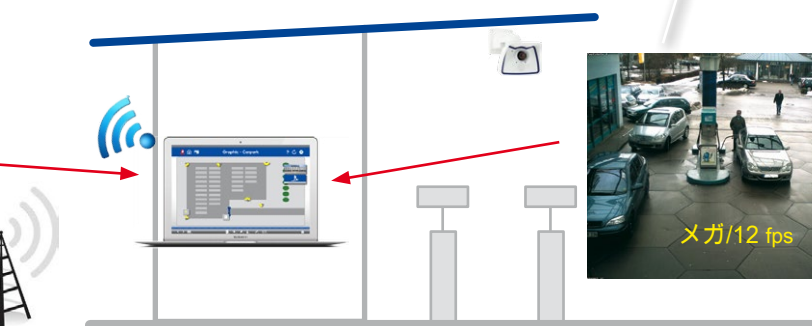
ガソリンスタンド

画質調整済みの
ガソリンスタンドのカメラ



ガソリンスタンド

高画質
ガソリンスタンドのカメラ



2 主な特長

2.1 使いやすさを独自の着想で追求

瞬時に選択

カメラバーからドラッグ&
ドロップ。



ウィンドウと同サ
イズに最大表示
シングルクリック。



全画面表示

ダブルクリック。

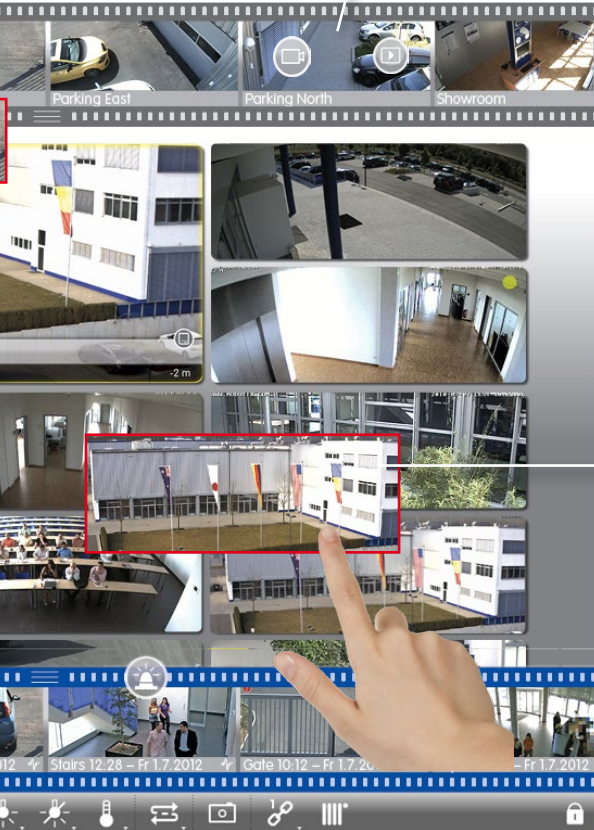


モニターがもう1台接続されている場合:

2番目のモニターに表示
ダブルクリック。

ビューの切り替え

カメラバーのアイコンにマウスを重ねて
ビューを選択する。

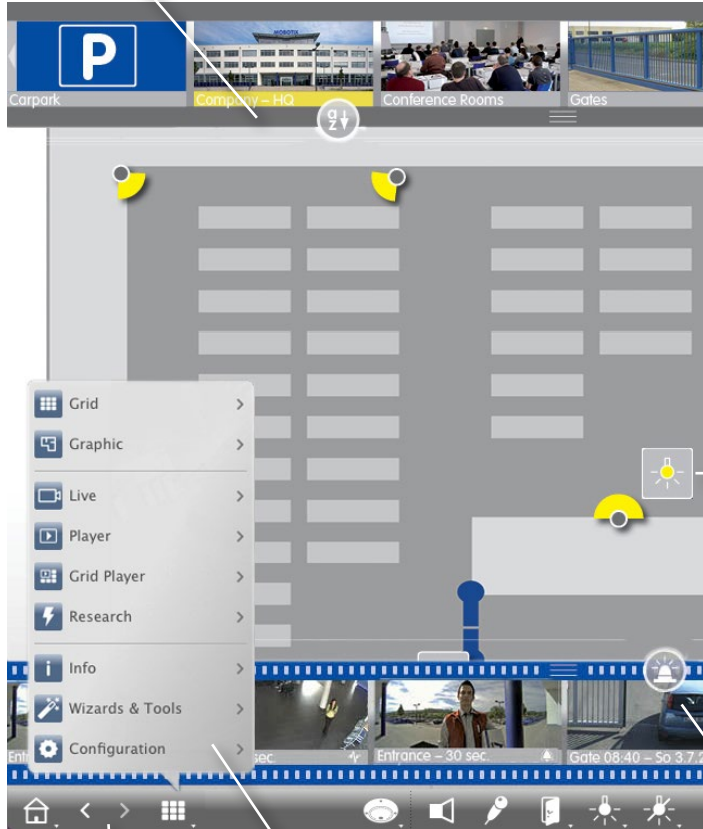
**瞬時に選択**

タイルをドラッグしてフォーカスウィンドウにドロップする。



瞬時に選択

グループバーからドラッグ&
ドロップ。

**ホームビュー**

参照
ビューの履歴を順
に呼び出す。

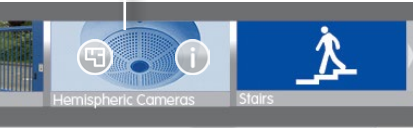
ナビゲート

ナビゲーションボタンを使
って、ビューやカメラを選
択する。

使いやすさを独自の着想で追求

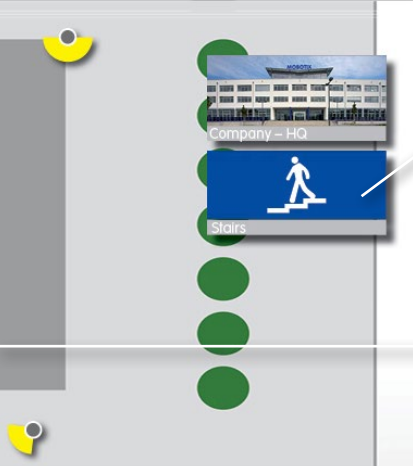
ビューの切り替え

グループバーのアイコンにマウスを重ねてビューを選択する。



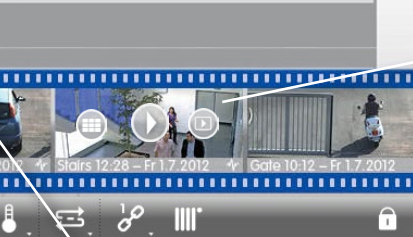
他のグループを開く

グリッドビューでグループをクリック。



スイッチ機能

スイッチアイコンを使って機能を制御する。



ビューの切り替え

イベントバーのアイコンにマウスを重ねてビューまたはカメラを選択する。

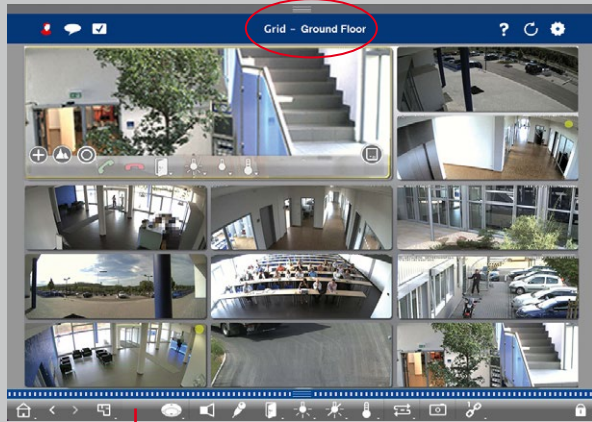
全てのビューで調整と選択に使うアイコン



2.2 カメラグループ

いくつかの条件に従ってグループ化されたグリッドビューです。たとえば、場所、機能などの条件でグループ化できます。

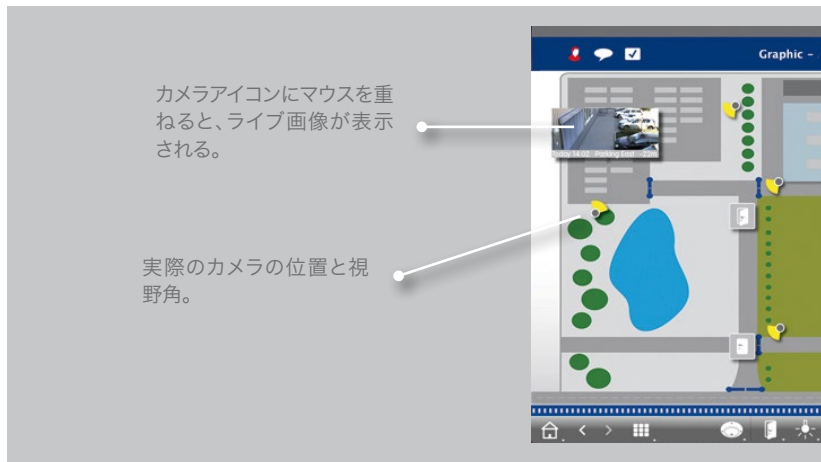
「平面フロア」カメラグループ



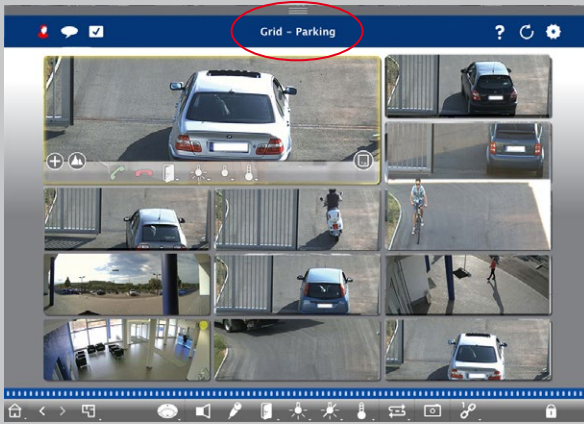
グループ機能

複数のカメラが使われていることなどを示す。

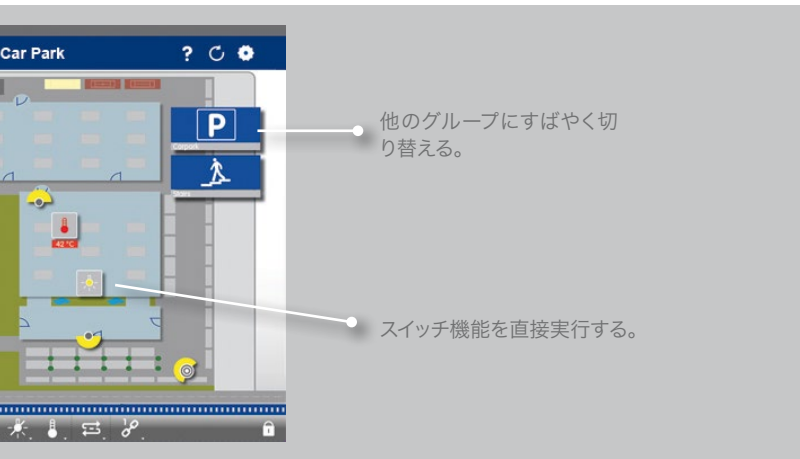
実際のカメラ位置を示すグラフィックビュー: 全容



「駐車場」カメラグループ



ていることや、デフォルトのドアが開いて

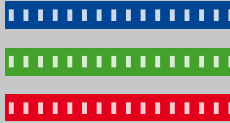


他のグループにすばやく切り替える。

スイッチ機能を直接実行する。

2.3 場所やビューを問わず常に情報を表示

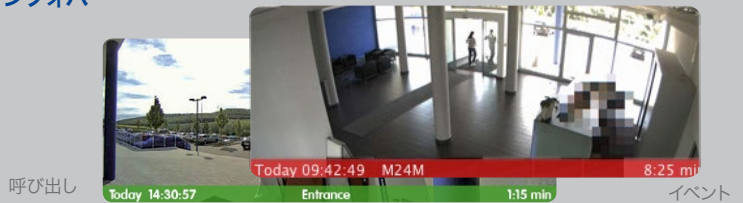
イベントバー



新規のイベントを表示

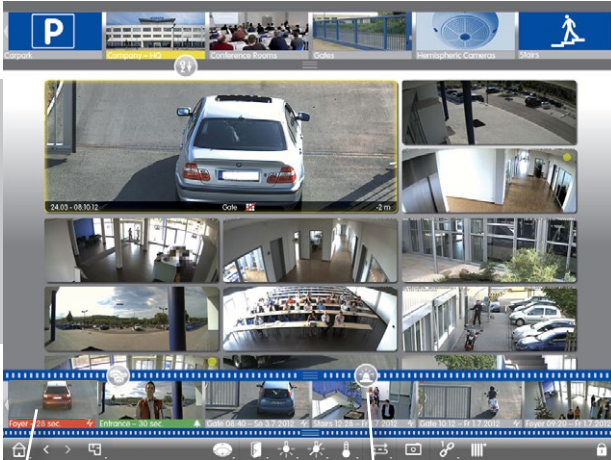
イベントトリガ時に赤色に、呼び出しイベント時に緑色になる。

イベントインフォバー



新規のイベントを表示

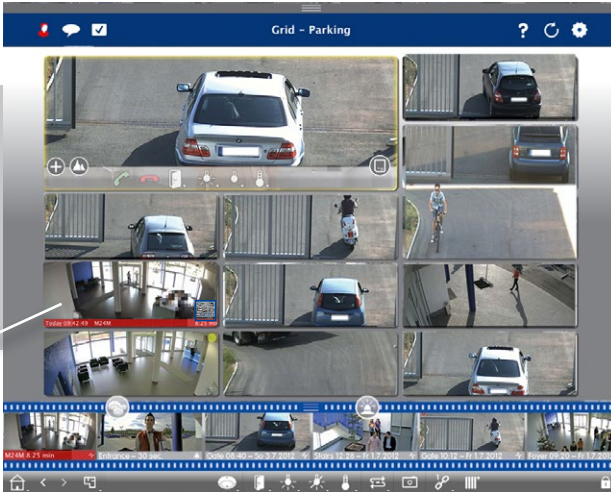
カメラがイベントを検出すると、ライブ画像の下のバーが赤色または緑色に変わる。ストレージカードスライダを左側へ動かすと、最新のイベント画像が見える。



イベント画像を時系列で並べる

表示をフィルター

- 📷 カメラ別に表示
- 👤 グループ別に表示
- 📅 イベントタイプ別に表示



2.4 プレーヤーを使った便利な検索と分析

高速かつシンプルな操作



再生



再生

1 画像進む/戻る

最大16倍
再生速度

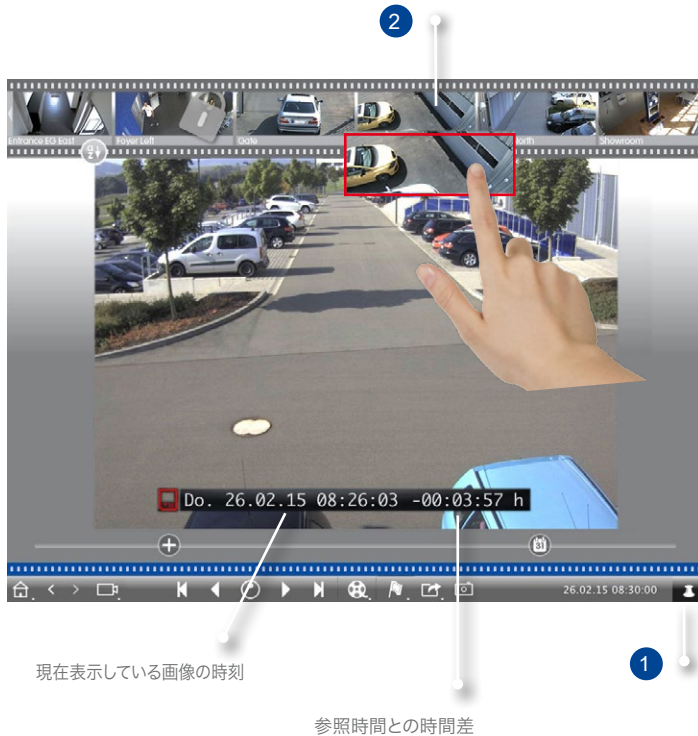
正確に指定

ファイルサーバの記録へ直接アクセスして、現在の画像時刻から 30秒前に進んで/後ろに戻って検索する。

プレーヤーを使った便利な検索と分析

特定の時点について複数のカメラを調査する

駐車場に設置したカメラの1つが、午後8時30分にイベントを検出しました。その時刻に、他のカメラに何かが映っていないでしょうか。

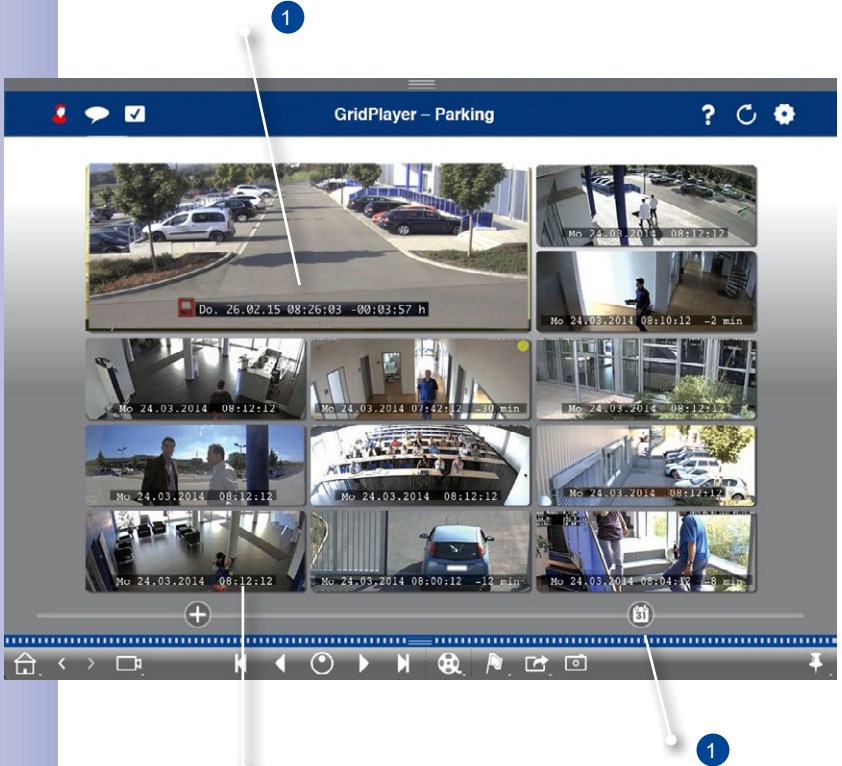


- 1 画紙ボタンをクリックして参照時間を設定します。
- 2 カメラバーからカメラを1つずつドラッグ&ドロップして、参照時間に同期させます。

2.5 グリッドプレーヤー - カメラグループ全体の確認

カメラグループ全体の録画を時刻で同期して参照する

- フォーカスウィンドウのタイムスタンプまたはカレンダースライダを使って時間を設定します。



全てのカメラの表示が、指定した時間に最も近いイベント画像に切り替わります。カメラ画像の下に表示されるタイムスタンプは、その画像が記録された時刻と日付です。参照時間との差が、右側に表示されます。

2.6 イベント・ヒストグラム – イベントの統計を簡単解析

近日対応予定

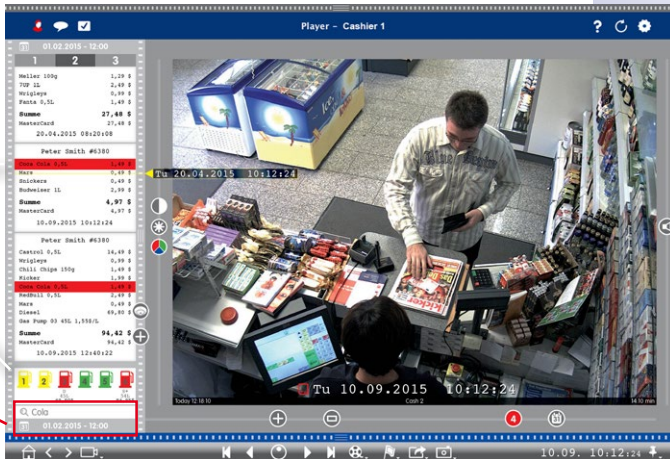
イベント・ヒストグラムは、全カメラのイベントアクティビティの全体像を素早く表示します。



2.7 MxPOS – POS (ポイント・オブ・セール) システムとの統合

近日対応予定

POSシステムにより作成されたデータを検索したり分類します。レジでの処理内容を、例えば物品、価格、または従業員から分析することができます。



検索結果: 品目に「コーラ」を含んだタイムスタンプおよびイベント画像の全て。

ガソリンスタンドのポンプ場の使用状況

Cola
01.02.2015 - 12:00

検索キーワード: "Cola"

2.8 保存画像へのアクセス – 簡単にカスタマイズ

必要に応じて、カメラ経由または直接ファイルサーバの記録にアクセスするよう各ネットワーク環境を設定することができます。

① リモート再生:カメラ経由のアクセス

ローカルネットワーク内、またはリモートから

長所: カメラには、画像のサイズ、フレーム・レート、およびビデオストリームの画質を使用可能な帯域幅に合わせて調整する機能があります。



② 保存された画像に直接アクセスする

ローカルネットワーク内

長所:カメラに負荷をかけないため、高速にアクセスできます(近日対応予定の機能です)。

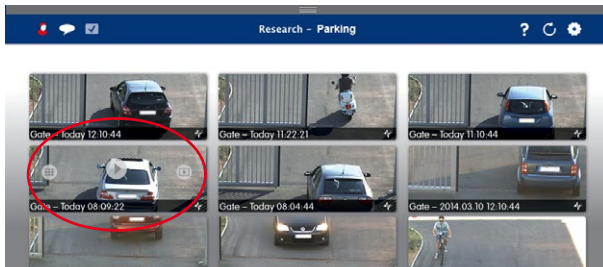
インスタントプレーヤー - どこからでも確認

2.9 インスタントプレーヤー - どこからでも確認

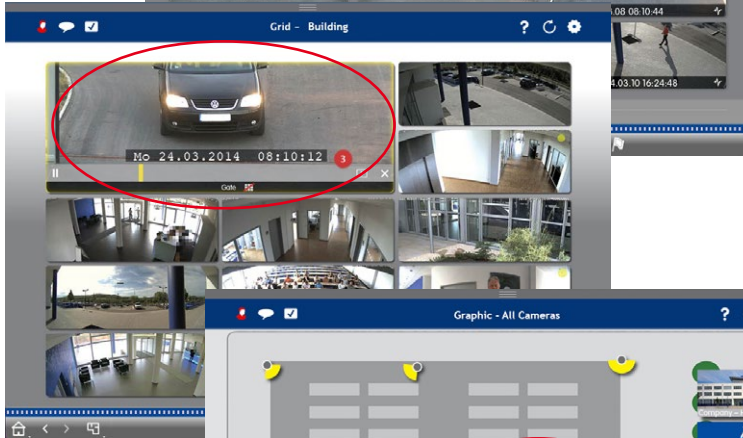
イベントをインスタントに再生して素早く確認できます。この機能は、イベントバーグリッドビュー、およびグラフィックビューで使用できます。



イベントバー



検索ビュー



グリッドビュー



グラフィックビュー

2.10 画像調整

Hemisphericカメラは360°の画像をとらえます。そのままでは不自然に見えるので、MxMCではこのような画像を補正します。この処理は、ライブ画像と録画画像の両方に適用されます。



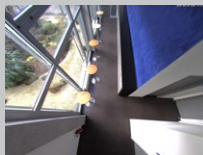
完全な画像

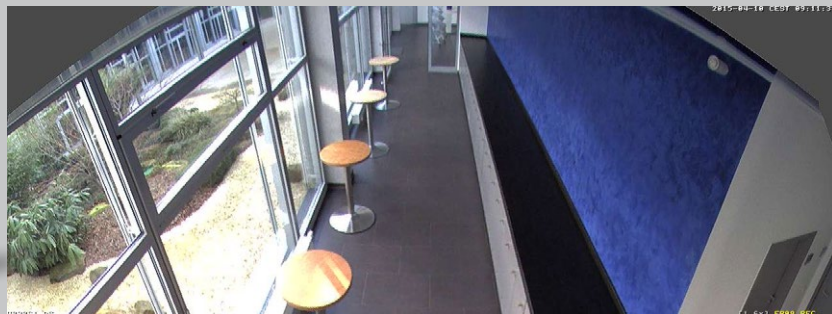


ノーマル



パノラマ





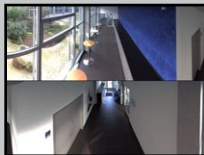
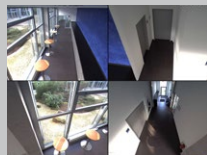
サラウンド



ダブル・パノラマ

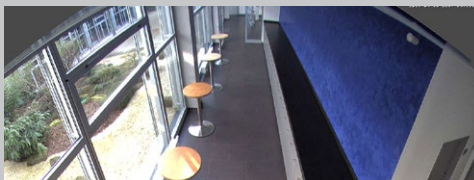


パノラマ/フォーカス



2.11 パノラマ補正と自動フリップ

パノラマ補正



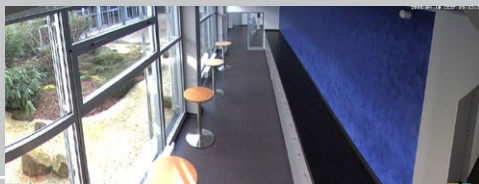
未補正



自動フリップ:ドームカメラの自動監視サポート

人物や物体がカメラの真下を通過した場合も、補正した画像を常に表示する。





補正済み

パノラマスライダを補正位置に移動し、マウスホイールを使って画像が自然に見えるように補正します。



カメラ画像を自動でフリップする。

2.12 ユーザ管理

個人の権限の管理



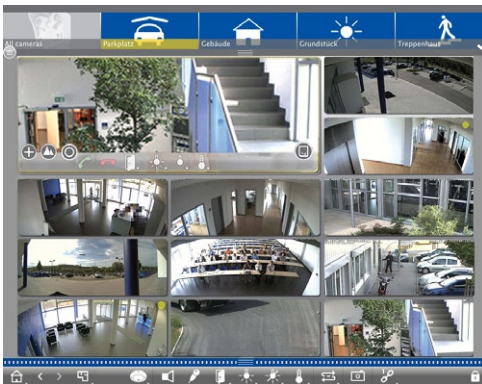
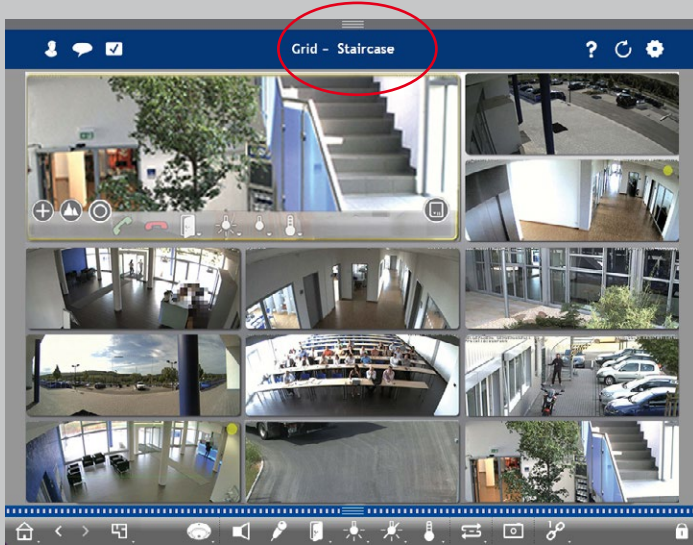
「階段」カメラグループのみが、「来訪」ユーザに対してロック解除されています。

一時ロック解除機能

「来訪」ユーザ



監督者のPINを使って、他のカメラグループをロック解除する。



ユーザは、全てのカメラグループに一時的にアクセスできる。

2.13 マルチモニター機能



追加のソフトウェアコストが発生しないマルチモニターシステム





タイプ画像を表示する。



複数のモニター/モニターウォール
モニターは自動的に認識され、必要に応じて選択して位置を変えることができる。

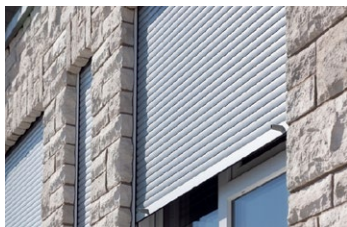


2.14 ハイパーリンクサポート

HTTP要求を使った気象情報Webサイトの表示やホームオートメーション制御など、あらかじめ設定された機能を実行します。



気象情報Webサイトを表示する。



シャッターを開け閉めする。

近日常対応予定

2.15 ONVIFサポート

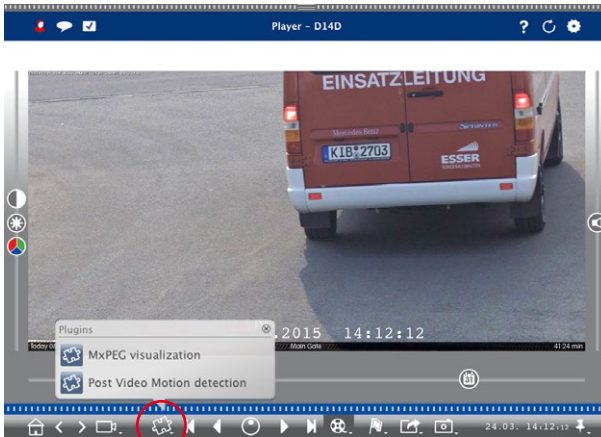
2014年12月以来、MOBOTIXはONVIFのメンバーです。MxManagementCenterにONVIF互換ビデオソースを統合し、利用できます。



プラグイン:サードパーティ製品に対応したインターフェース

2.16 プラグイン:サードパーティ製品に対応したインターフェース

近日対応予定



プラグインダイアログを開いて機能を選択します。



プラグインにポストビデオモーション検知が既に含まれます。

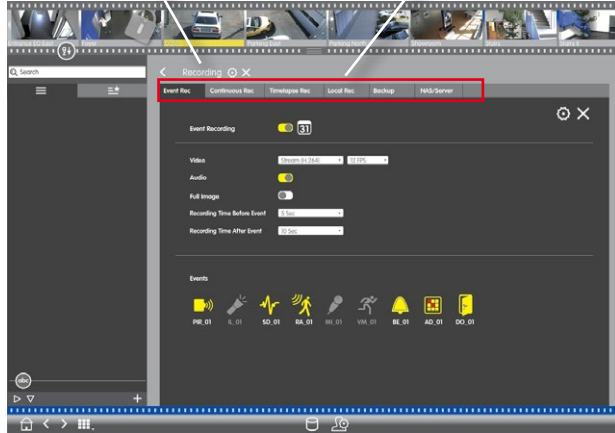
近日対応予定

2.17 インテリジェント構成管理

選択した機能に関連する全ての設定を1箇所で指定できる

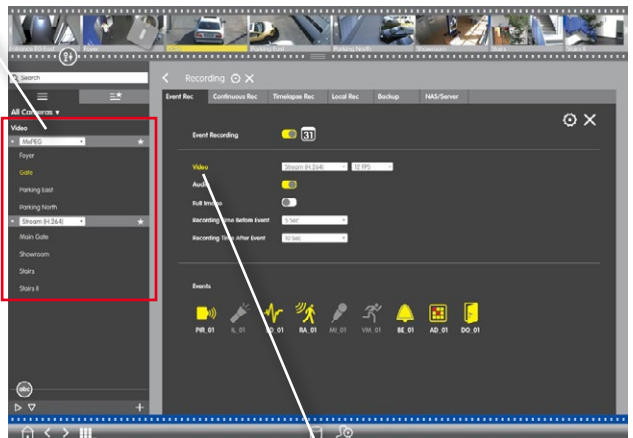
構成:録画

録画を構成する全ての設定項目



システム/グループの全設定を一目で確認する

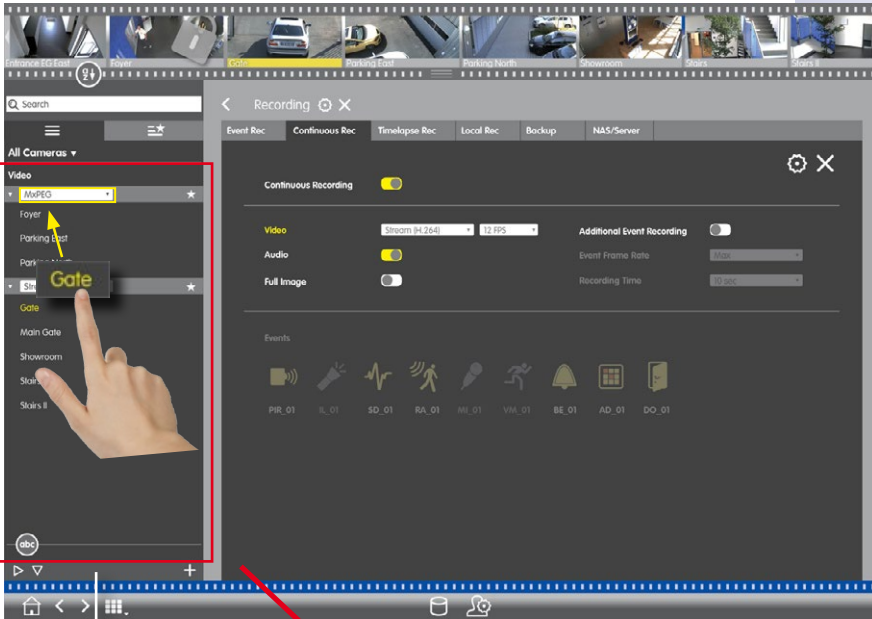
1つ以上のカメラについて特定の機能の全設定を表示し、パラメータに従って情報をインテリジェントにソートできる。



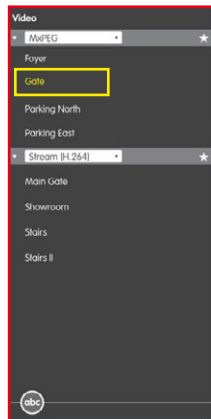
選択機能

1台以上のカメラの設定をドラッグ&ドロップで簡単に指定する

近日対応予定



「ゲート」カメラのビデオコーデックを調節するには、別の設定に移動させます。



3 詳細

3.1 システム要件

Mac OS X:

Mac OS X 10.7以降、2 GHz以上のプロセッサ、2 GB以上のRAM、OpenGL V2.1対応グラフィックアダプター

Windows:

Windows Vista以降、2 GHz以上のプロセッサ、2 GB以上のRAM、OpenGL V2.1対応グラフィックアダプター

統合MOBOTIXビデオソース:

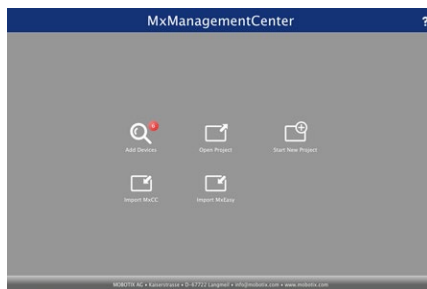
カメラソフトウェア4.3.2.72以降。


システム要件と使用可能なMxMCリリースの詳細については、MOBOTIX Webサイトの www.mobotix.com > サポート > Software Downloadsからリリースノートを手続きてご覧ください。

3.2 MxManagementCenterの初期設定

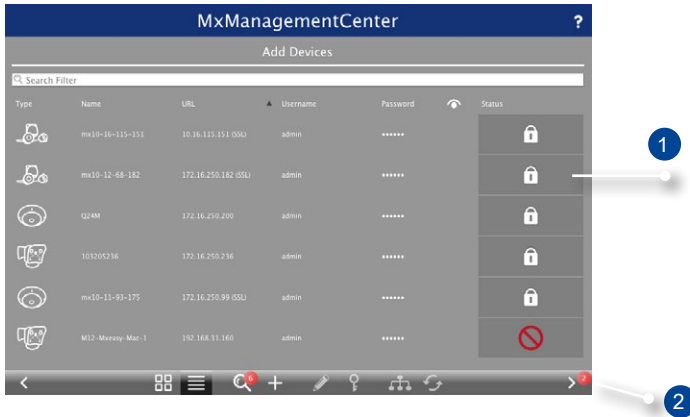
3.2.1 カメラの追加

MxMCを初めて起動するときにカメラを追加する



MxMCを初めて起動すると、構成ウィザードが表示され、MOBOTIXカメラの検索が自動的に始まります。見つかったカメラの台数が、追加ボタン  の横に表示されます。新しいカメラを接続したり、既存のカメラを取り外したりしてネットワークに接続されたMOBOTIXカメラの台数が変わると、この数値も自動的に更新されます。

1. デバイスを追加をクリックします。カメラは、リスト形式またはタイル形式で表示されます。表示モードを変えるには、リストボタンとタイルボタンを使います。



カメラの状態： ①

- ・ :カメラにアクセスできない
- ・ :カメラはコンピュータと同じネットワーク内に存在しない
- ・ :カメラソフトウェアが最新のリリースではない
- ・ :カメラはパスワードで保護されている

2. カメラを選択する(複数のカメラを選択するにはCmd-クリックを使う)

- ・ :カメラがパスワードで保護されている場合は、ユーザとパスワードを編集をクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- ・ :カメラが有効ではないネットワーク内に存在する場合は、ネットワーク設定を編集をクリックし、IPアドレスの自動割り当てか、固定IPアドレスを選択します。

3. 選択中のカメラの台数が次のタンの横に表示されます。② 次のページに移動し、終了をクリックします。

ヒント:

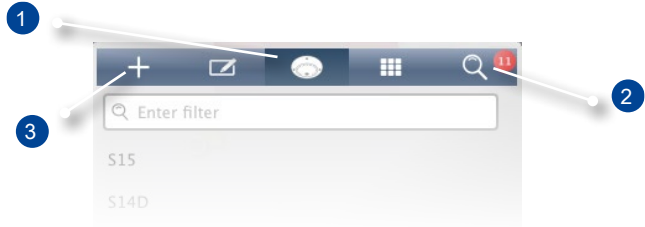
設定ウィザードは、後でメニューから開くこともできます。

実行中のシステムにカメラを追加する

カメラの管理を開きます。この操作を行うには、グラフィックビュー、グリッドビュー、ライブビュー、またはインフォビューのコマンドバーでカメラを右クリックします。



a) カメラの検索:



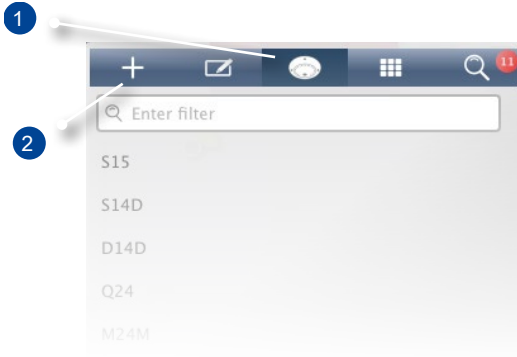
1. カメラ **1** をクリックしてから、検索 **2** をクリックします。ローカルネットワークに見つかった全てのカメラがリストに表示されます。
2. 追加するカメラを選択します(複数のカメラを選択するにはCmd-クリックを使います)。
3. 追加 **3** をクリックします。カメラの説明を「駐車場」のように入力します。複数のカメラを追加した場合は、「駐車場_001」、「駐車場_002」のように番号が振られます。
4. ユーザ名とパスワードを入力します。
5. コンテキストメニューの外側のどこかをクリックし、「はい」をクリックしてプロンプトを閉じます。これで、追加したカメラがリストに表示されます。追加したカメラの1つをクリックして、カメラデータを編集します。
6. カメラアクセスデータ:

Name	Name
Manufacturer	MOBOTIX
URL	IP address
Remote URL	DynDNS
User Name	User Name
Password	Password
Environment	Default
Active	<input type="checkbox"/>
Remote	<input type="checkbox"/>
SSL	<input type="checkbox"/>

- 名前:カメラ名が自動的に表示されます。複数のカメラを追加した場合は、カメラの名前を個別に入力できます。
- URL :IPアドレスが自動的に表示されます。
- ユーザ名、パスワード:カメラを追加するときに入力したアクセスデータが表示されます。必要であれば、ここでデータを変更できます。

b) カメラを手動で追加:

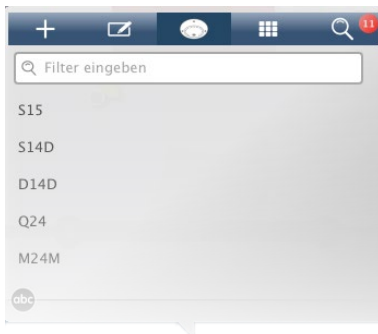
ローカルネットワークの一部ではないカメラは、自動的に検出されません。このようなカメラは手動で追加できます。



1. カメラ **1** をクリックしてから、追加 **2** をクリックします。

2. カメラアクセスデータ:

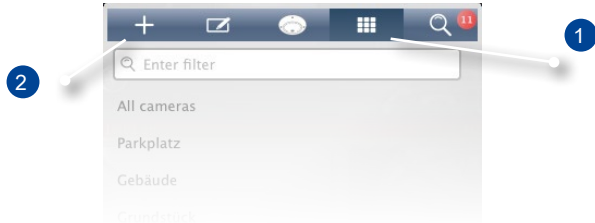
- 名前: カメラの説明を入力します。
- URL: カメラのIPアドレス。
- リモートURL: ローカルネットワークの外からカメラにアクセスするには、DynDNS名を入力する必要があります。また、リモートオプションを有効にする必要もありません。
- ユーザ名、パスワード: カメラのユーザ名とパスワードを入力します。



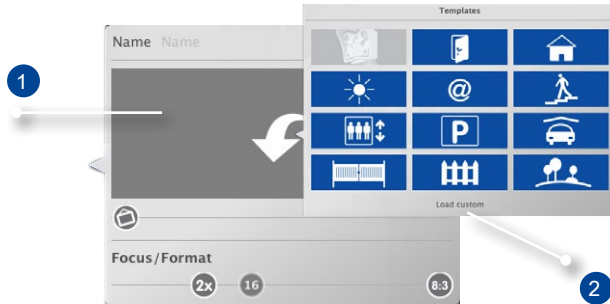


3.2.2 カメラグループの作成

1. カメラの管理を開きます。この操作を行うには、グラフィックビュー、グリッドビュー、ライブビュー、またはインフォビューのコマンドバーでカメラを右クリックします。
2. グループ **1** をクリックしてから、追加 **2** をクリックします。



3. グループ名を入力し、必要であればグループの画像またはアイコンも入力します。この画像は、後でグループバーでこのグループを表すために使われます。この操作を行うには、グレーのフィールド **1** をクリックし、定義済みのアイコンの1つを選択します。独自の画像を使いたい場合は、カスタム **2** をクリックします。



4. フォーカス/フォーマット: この機能は、グリッドビューのカメラ表示に使うレイアウトを指定します。カメラ画像のフォーマット(アスペクト比)(4:3、16:9、8:3)およびフォーカスウィンドウのサイズ(0x [フォーカスウィンドウなし]、1x、2x、3x、4x、5x、6x、7x、8x カメラ画像サイズ)を選択できます。グリッドビューに一度に表示するカメラの最大数を設定します。
5. 3つのスライダを目的の設定の位置に移動してください。


カメラグループにカメラを追加する

1. カメラの管理を開きます。この操作を行うには、グラフィックビュー、グリッドビュー、ライブビュー、またはインフォビューのコマンドバーでカメラを右クリックします。
2. グループ **1** をクリックしてから、目的のカメラグループをクリックします。 **2**
3. 上部のフレーム枠からカメラバーをプルダウンします。



4. カメラバーから目的のカメラをドラッグして、グループを編集するウィンドウにドロップします **3**。

ヒント:

グループを新規のグループにドラッグすることもできます。グループに含まれる全てのカメラが新規のカメラグループに挿入されます。同じタイプのカメラを全て追加する場合は、 をクリックしてからカメラの1つをグループにドラッグします。

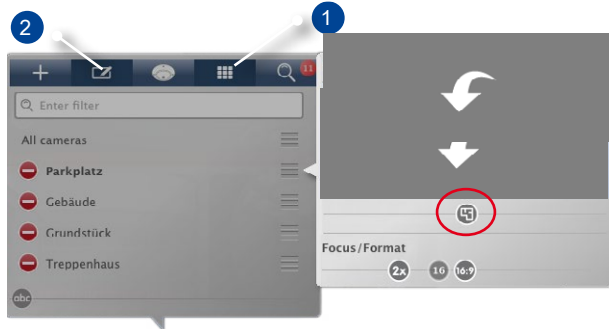
3.2.3 グループビューの設定



平面/間取り図面をグラフィックビューで使用する

グラフィックビューを使う際は、グループを構成するカメラを平面図面または間取り図面に配置できます。




1. カメラの管理を開きます。この操作を行うには、グラフィックビュー、グリッドビュー、ライブビュー、またはインフォビューのコマンドバーでカメラを右クリックします。



2. グループ **1** をクリックしてから、編集 **2** をクリックします。平面図面または間取り図面に設定するカメラグループを選択します。別のウィンドウが開きます。
3. スライダー  を  の位置まで動かします。
4. 矢印をクリックし、平面/間取り図面があるファイルを選択します。

カメラグループに関する情報を追加する

カメラグループに関する特別な指示を表示したい場合は、情報ページをカメラグループに追加できます。手順は以下のとおりです。

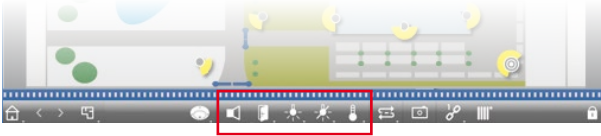
1. グラフィックビュー、グリッドビュー、ライブビュー、またはインフォビューでコマンドバーの  を右クリックし、カメラの管理を開きます。



2. グループ **1** をクリックしてから、編集 **2** をクリックします。情報を追加するカメラグループを選択します。別のウィンドウが開きます。
3. スライダ **3** を **1** の位置まで動かします。
4. 矢印をクリックし、使用するファイルを選択します。

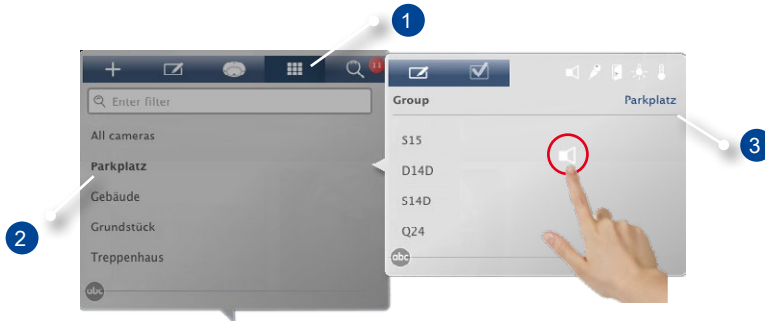
グループ機能を設定または削除する

グループ機能は、グラフィックビュー、グリッドビュー、ライブビュー、またはインフォビューで使用できます。



たとえば、複数のカメラの照明を一度に点灯する、複数のスピーカーからアナウンスを流す、特定のカメラを選択することなくドアを開ける、といった操作が可能です。

1. カメラの管理を開きます。この操作を行うには、グラフィックビュー、グリッドビュー、ライブビュー、またはインフォビューのコマンドバーで カメラを右クリックします。



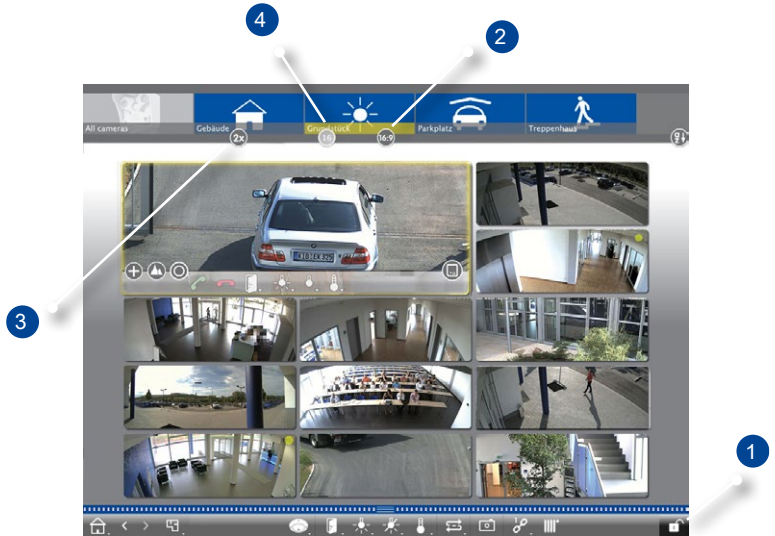
2. グループ **1** をクリックしてから、グループ機能を割り当てるカメラグループ **2** をクリックします。
3. 特定の機能をカメラに割り当てるには、その機能のボタン(聞く、話す、ドア、照明、温度) **3** をカメラの上に移動します。

グループ機能を削除する

機能を削除するには、カメラの列からアイコンをドラッグして外へ出します。

グリッドビューで追加のオプションを設定する

カメラグループを作成するときに定義したレイアウトは、後でグリッドビューを使って調整することもできます。



16:9

2x

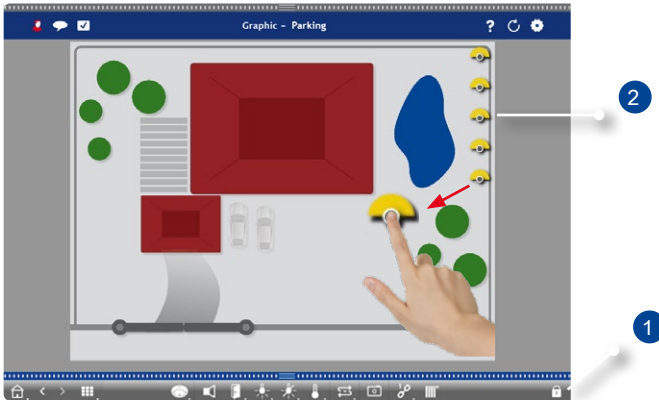
16

1. 編集モード **1** を有効にします。
2. グループバーが開きます。バーの下部に複数のスライダがあります。
3. スライダを適切な **2** 位置へ移動して、カメラ画像のフォーマット(アスペクト比)を 4:3、16:9、8:3のいずれかに設定します。スライダを適切な位置 **3** へ移動して、フォーカスウィンドウのサイズ(0x、1x、2x、3x、4x、5x、6x、7x、または8xカメラ画像サイズ)を設定します。スライダ **4** を使って、表示するカメラの台数を制限できます。たとえば、たくさんのカメラの概要をグラフィックビューに表示したい、あるいは重要なカメラだけをグリッドビューに表示したい、といった場合にこの機能を使います。
4. 編集モードを無効にして設定を保存します。

グラフィックビューで追加のオプションを設定する

図面上にカメラを配置する

カメラグループを初めてグラフィックビューで開くと、グループの全カメラが右側の枠線の近くにアイコンで表示されます。実際の設置場所と一致するように、カメラを平面図面（間取り図）に配置する必要があります。

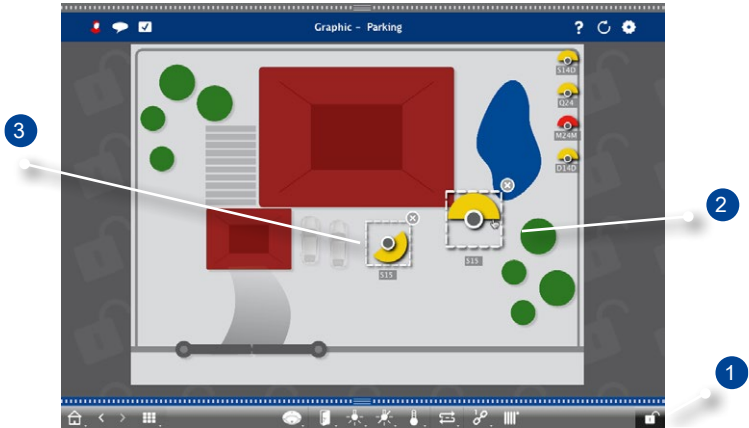


1. 編集モード **1** を有効にします。アイコンの中心にあるグレーの円をクリックし、カメラの実際の場所までドラッグします。
2. 編集モードを無効にして設定を保存します。



カメラアイコンを編集する

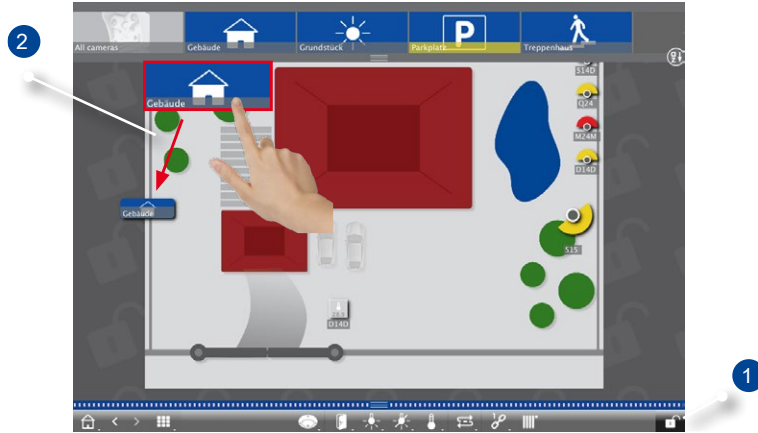
アイコンのサイズを変更したり、実際のカメラの向きや視野角に合わせて回転することができます。



1. 編集モード **1** を有効にし、カメラアイコンをクリックします。アイコンの黄色の部分を使って、適切な向きへ回転します。 **2**
2. アイコンのサイズを変更するには、境界ボックスの角をドラッグして調整します。 **3**
3. カメラの視野角を変更するには、カメラアイコンをクリックし、マウスホイールを使って適切な角度になるまで調整します。
4. 編集モードを無効にして設定を保存します。

図面上に他のカメラグループを配置する

カメラグループの平面図面や間取り図面に別のカメラグループを配置できます。追加したカメラグループのカメラがイベントを検出した場合、そのカメラグループのアイコンが赤色または緑色(呼び出しイベント)に変わります。グループアイコンをクリックして、カメラグループのグリッドビューを開きます。

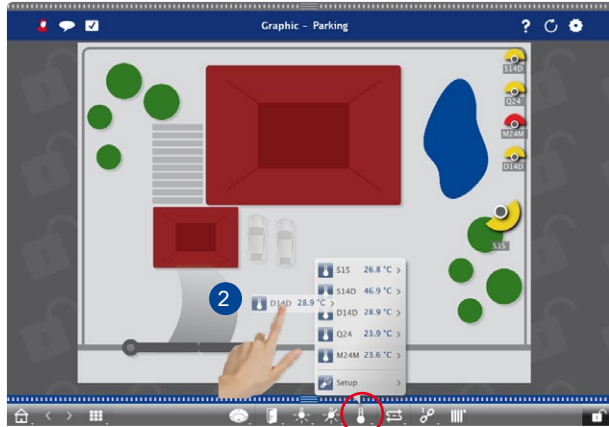


1. 編集モード **1** を有効にし、目的のカメラグループをグループバーから平面図面または間取り図面へドラッグします。**2**
2. 編集モードを無効にして設定を保存します。



図面上にコントロールを配置する

たとえば、カメラがドアに接続されている場合、設定が適切であれば、対応するコントロールアイコンを平面図面または間取り図面へドラッグするだけで、そのアイコンをクリックしてドア機能を制御できます。図面上でドアの近くにあるカメラのドア機能などを制御したい場合に、この操作を行います。



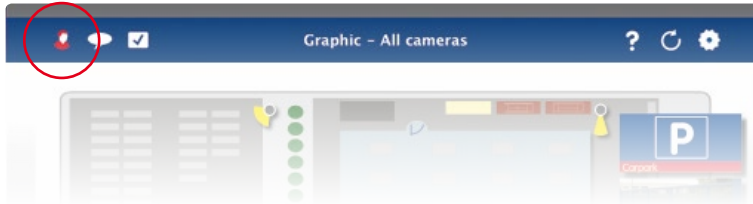
1. 編集モード **1** を有効にします。
2. 目的のコントロール機能を右クリックし、アイコンを平面/間取り図面へドラッグします。 **2**
3. 編集モードを無効にして設定を保存します。

3.2.4 ユーザの追加

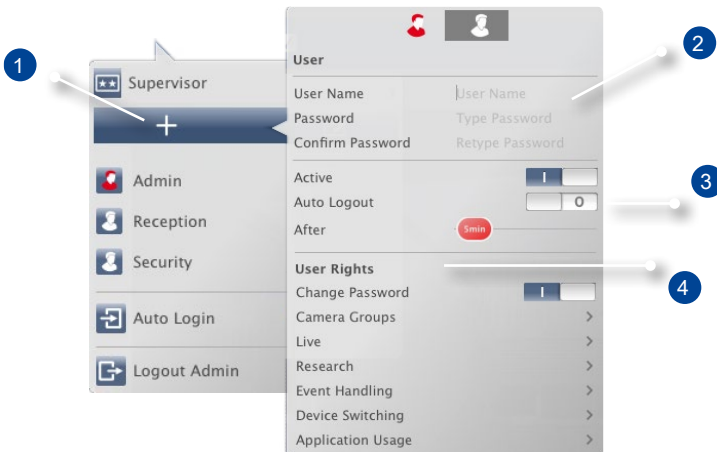
MxManagementCenterを使って権限の異なるユーザを設定したい場合は、最初にユーザの追加を行います。この操作のために、「管理者」の役割と「ユーザ」の役割が区別されています。管理者は全ての権限を持ちますが、ユーザには各自が必要とする機能に基づいて権限を割り当てることができます。

ユーザを追加するためには、管理者の権限が必要です。

1. 見出しのユーザの管理アイコンをクリックします。



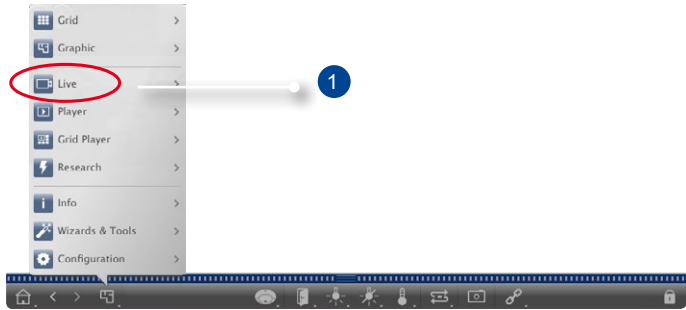
2. 追加 **1** をクリックします。
3. ユーザ名とパスワードを入力します。 **2**



4. アクティブオプションを使って、新しいユーザをすぐに有効にするか、後で有効にします。必要であれば、自動的にログアウト設定を使って、指定した時間が経過した後でユーザを自動的にログアウトさせます。 **3**
5. デフォルトで、新しいユーザには全ての機能を実行できる権限が与えられます。このユーザに特定の権限を与えない場合は、ユーザ権限セクションでその権限を無効に設定します。 **4**

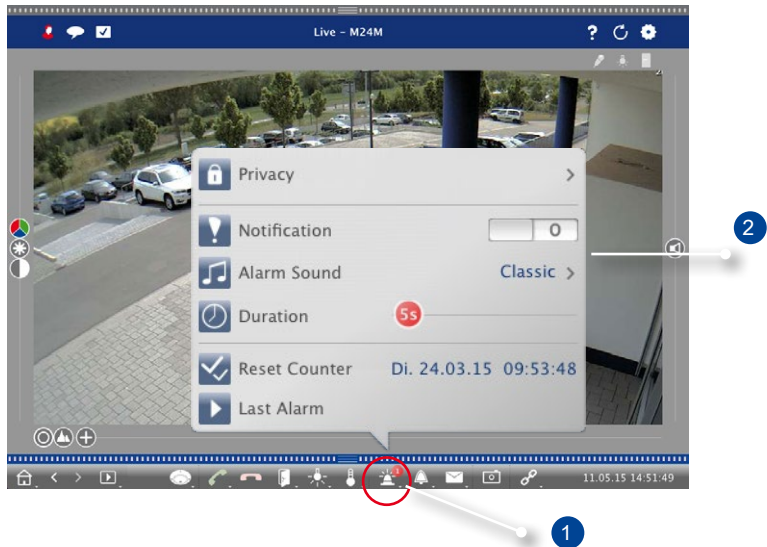
3.2.5 アラームメッセージ(ライブビュー)の設定

イベントバーまたはイベントインフォバーに表示するイベント通知のほかに、新しいアラームを知らせるアラーム通知またはアラーム音を設定できます。この設定を行うには、ナビゲーションアイコンを右クリックし、ライブビューを選択してライブビューに切り替えます。①



アラームのメッセージ




アラームのメッセージを有効または無効に設定するには、ライブビューでアラーム①アイコンを右クリックします。次に通知スイッチを有効にします。②



アクティブなアラームメッセージ

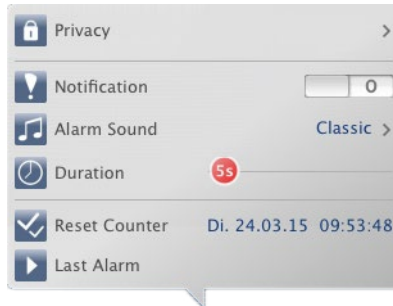
アラームを生成するイベントがカメラで検出された場合、通知が有効であれば、アラームメッセージがポップアップで表示されます。



- ・ カメラのライブ画像を表示するには、 をクリックします(アラームのメッセージがポップアップした直後など)。
- ・ プレーヤーを開いて録画を見るには、 をクリックします。
- ・ メッセージを閉じるには、 をクリックします。

アラーム音

1. アラーム音をクリックして、メロディーとボリュームを設定します。
2. メロディーをリストから選択し、下部にあるボリューム スライダーを動かしてボリュームを設定します。



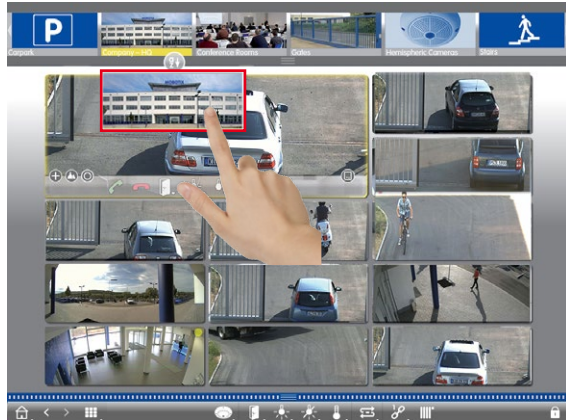
アラーム継続時間

継続時間スライダーを使って、メッセージの表示時間を設定します。

3.3 MxManagementCenterの通常運用

3.3.1 グリッドビューの操作

カメラグループを選択する



1. グループバーをプルダウンします。
2. グループをドラッグしてグリッドビューにドロップします。または、グループアイコンをクリックします。

フォーカスウィンドウを使って別のカメラを表示する



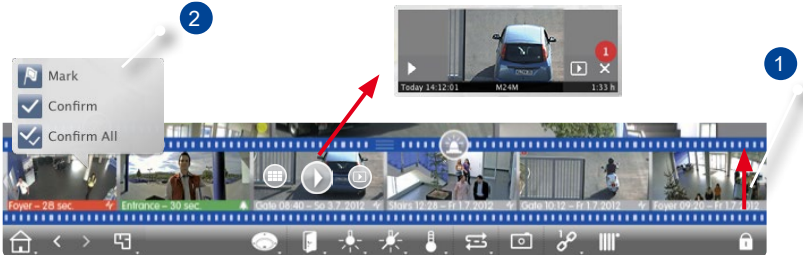
1. カメラバーからカメラをドラッグして、フォーカスウィンドウにドロップするか、ライブ画像をフォーカスウィンドウヘドラッグします。

イベントを検出または編集する

カメラがアラームを発生した場合、グリッドビューには複数の手段でそれが表示されます。

イベントバー

イベントバーには、イベントがアラームを引き起こしたこと（赤色）、または来客がドアベルを鳴らしたこと（緑色）が表示されます。イベントバーが表示されていない場合もこの機能は有効です。



1. イベントバーを表示するには、下部の枠線を上げます。**1**
2. 新しいイベントに確認応答するには、イベント画像をクリックします。全てのイベントに一度に確認応答するには、イベント画像を右クリックし、全て確認するを選択します。**2** また、重要なイベントにマークを付けることもできます。後で重要なイベントだけを再生できます。
3. イベントバーの機能：
 - ・ インスタントプレーヤーを使って、イベント録画をイベントバーから直接見ることができます。マウスポインタをイベント画像の上に移動してください。アイコンが3つ表示されます。▶ をクリックすると、再生が始まります。
 - ・ プレーヤーヘジャンプします。⏮ をクリックしてください。
 - ・ このカメラに割り当てられたグリッドビューを開きます。📺 をクリックしてください。

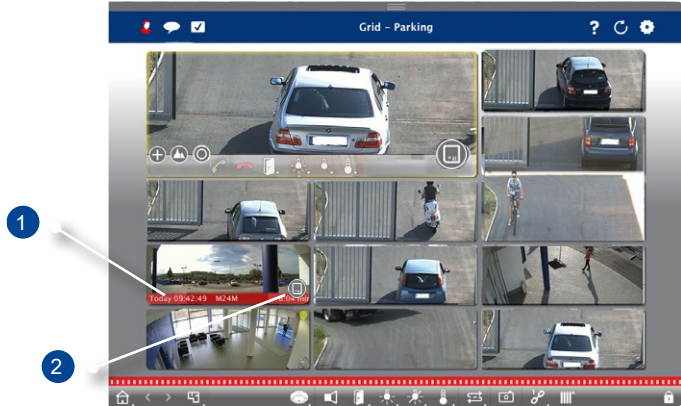
ヒント：

ライブ画像または録画をクリックすると、このカメラがウィンドウと同サイズに最大表示されます。



イベントインフォバー

新規のイベントもイベントインフォバーに表示されます。カメラがイベントを検出すると、ライブ画像の下のバーが赤色または緑色に変わります。①



SDカードスライダを左側へ動かしてください。② インスタントプレーヤーが開き、最新のイベント画像が表示されます。赤色のカウンタ③ をバーに沿ってドラッグすると、前の画像が表示され、カウンタの数字が増えます。対応するイベント画像の録画を再生するには、再生④ をクリックします。

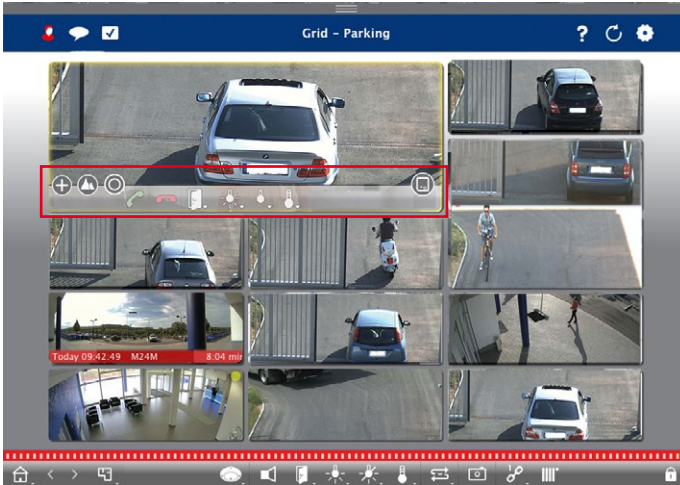











ヒント:

ライブ画像または録画をクリックすると、このカメラがウィンドウと同サイズに最大表示されます。

フォーカスウィンドウでカメラを制御する

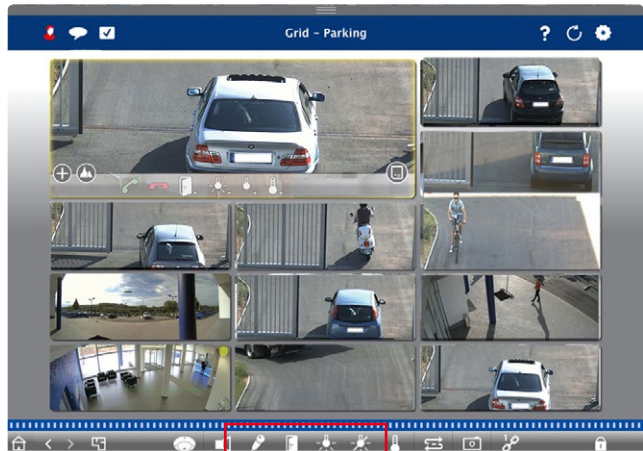
ウィンドウの下部にあるコントロール機能を使って、フォーカスウィンドウに表示中のカメラを制御できます。



- ・  : 画像セクションをズームする、移動する
- ・  : 定義済み画像セクションを選択する
- ・  : 画像歪みを補正する
- ・   : 電話に出る、受話器を置く
- ・   : ドアを開く、照明をつける
- ・  : 温度を表示する
- ・  : イベント画像を表示する

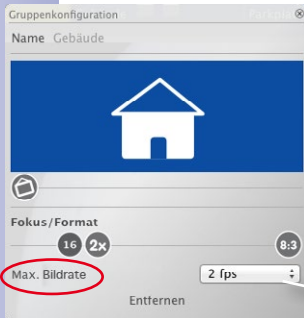
グループスイッチ機能

コマンドバーのグループボタンを使って、カメラグループの機能を制御できます。グループ機能を使うと、グループの1つ以上のカメラに対して、照明の点灯、1つ以上のドアの開閉、または複数のスピーカーを通じたアナウンス放送を実行できます。カメラがフォーカスウィンドウに表示されていないなくてもこの機能は使用できます。また、グループボタンを右クリックしてコンテキストメニューを開けば、現在のグループに含まれないカメラも制御できます。この操作を行うには、カメラが適切に設定されている必要があります。つまり、カメラをドアの開閉機構や照明スイッチ機構に接続し、適切な設定を行う必要があります。



- ・ アナウンスを放送する
- ・ ドアを開く、照明をつける
- ・ 温度を表示する

ライブ画像のフレームレート制限



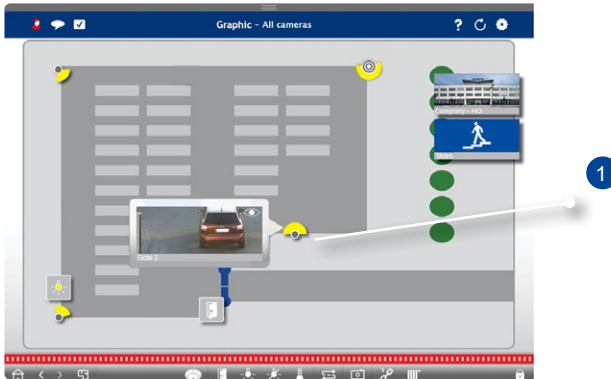
グリッドビューで多数のカメラを表示するとパフォーマンスは低減します。これを回避するには、ライブ画像のフレームレートを制限してください。ただし、フォーカスウィンドウには反映されませんのでご注意ください。

1. グループバーをプルダウンします。
2. グループアイコンを右クリックし、フレームレートを選択します **1**。

1

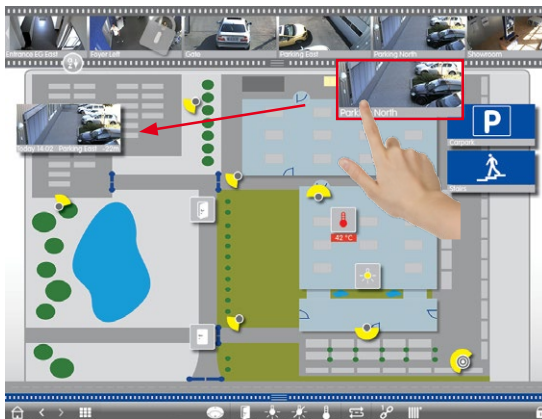
3.3.2 グラフィックビューの操作

平面/間取り図面上にカメラのライブ画像を一時的に表示する



状況を速やかに確認するため、マウスをカメラアイコンの上に移動してライブ画像を表示できます。**1** また、カメラバーからライブ画像をグラフィックビューにドラッグして一時的に表示することもできます。

別のグループのカメラからライブ画像を一時的に表示する



カメラバーから目的のカメラをドラッグして、平面/間取り図面にドロップします。ビューを変更すると、ライブ画像は消えます。

ヒント:

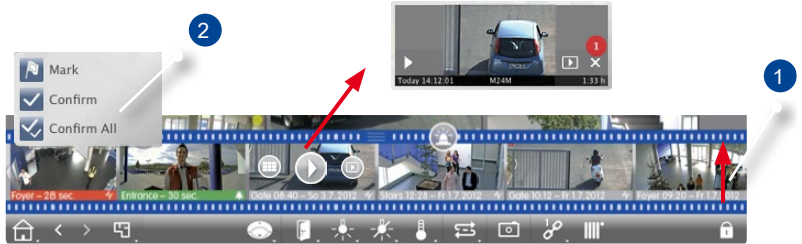
ライブ画像を永続的に表示することもできます。編集モードを有効にし、ライブ画像を平面/間取り図面に移動してから、編集モードを無効にします。

イベントを検出または編集する

カメラがアラームを発した場合、グラフィックビューには複数の手段でそれが表示されます。

イベントバー

イベントバーには、イベントがアラームを引き起こしたこと(赤色)、または来客がドアベルを鳴らしたこと(緑色)が表示されます。イベントバーが表示されていない場合もこの機能は有効です。

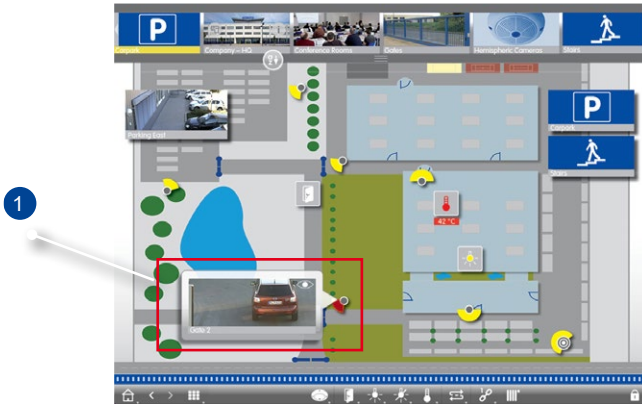


1. イベントバーを表示するには、下部の枠線を引き上げます。
2. 新しいイベントに確認応答するには、イベント画像をクリックします。全てのイベントに一度に確認応答するには、イベント画像を右クリックし、全て確認するを選択します。また、重要なイベントにマークを付けることもできます。後で重要なイベントだけを再生できます。
3. イベントバーの機能:
 - ・ インスタントプレーヤーを使って、イベント録画をイベントバーから直接見ることが出来ます。マウスポインタをイベント画像の上に移動してください。アイコンが3つ表示されます。▶ をクリックすると、再生が始まります。
 - ・ プレーヤーへジャンプします。▶ をクリックしてください。
 - ・ このカメラに割り当てられたグリッドビューを開きます。☰ をクリックしてください。



カメラアイコン

カメラがイベントを検出した場合、そのカメラのアイコンが赤色または緑色(呼び出しイベント)に変わります。カメラで監視されている状況を素早く確認するには、マウスポインタをア



アイコンを重ねて小さなライブ画像を表示するか **1** カメラアイコンをクリックして大きなライブ画像を表示します。2番目のモニターがある場合は、アイコンをダブルクリックすると2番目のモニターにライブ画像が表示されます。ライブ画像からプレーヤーに直接切り替えて、イベントの詳細をチェックできます。

インスタントプレーヤーを使って、イベント録画を見ることもできます。ライブ画像を表示し、



下部(日付と時刻)をクリックします。これでインスタントプレーヤーが開きます。**2** をクリックすると、再生が始まります。マウスポインタを画像に重ねても再生することができます。

カメラグループのアイコン

追加のカメラグループを平面/間取り図面に配置した場合は、カメラがイベントを検出すると、そのグループアイコンの名前バーが赤色または緑色に変わります。①

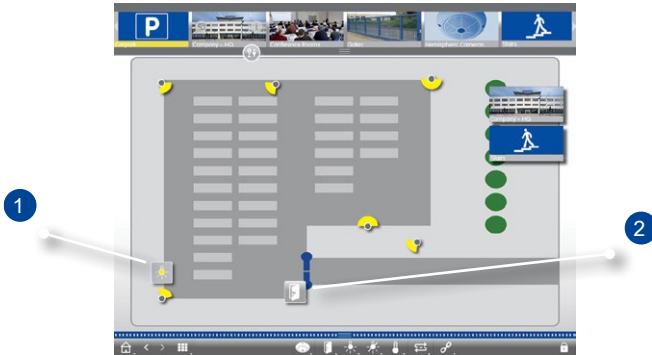


1. イベントを発生したカメラのライブ画像を表示するには、マウスをグループアイコンに重ねます。②
2. ライブ画像の下部(日付と時刻)をクリックして、インスタントプレーヤーを開きます。
▶ をクリックすると、再生が始まります。

スイッチ機能

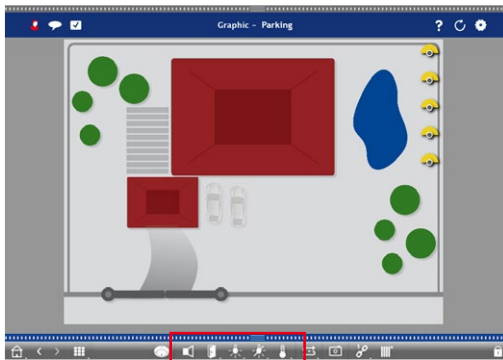
1台のカメラのスイッチ機能

平面/間取り図面に引き込んで配置したコントロール機能は、クリックするだけで機能を実行できます。①同時に、アイコンには機能の状態が表示されます。たとえば、ドアが開いたままであれば、アイコンには開いたドアのアイコンが表示されます。②



グループのスイッチ機能

コマンドバーのグループボタンを使うと、グループの1つ以上のカメラに対して、複数の照明の点灯、複数のドアの開閉、または複数のスピーカーを通じたアナウンス放送を実行できます。カメラがフォーカスウィンドウに表示されていなくてもこの機能は使用できます。また、グループボタンを右クリックしてコンテキストメニューを開けば、現在のグループに含まれないカメラも制御できます。



- ・ アナウンスを放送する
- ・ ドアを開く、照明をつける
- ・ 温度を表示する

3.4 MxManagementCenterの検索

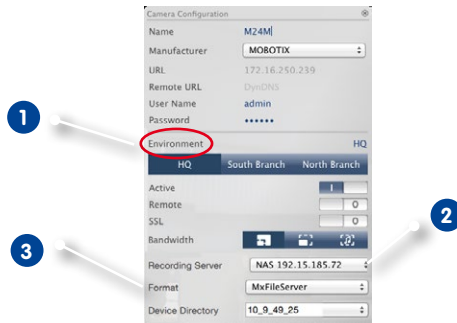
3.4.1 アクセスモードの設定

プログラムは、次の 2通りの方法を使用して保存された画像にアクセスします:カメラ経由 (リモート再生) によるアクセス、または録画画像が保存されたファイルサーバに直接アクセスします。

1. メニューから、**MxManagementCenter > 環境設定** をクリックして、録画パスを選択します。直接アクセスで使用するファイルサーバの録画パスを作成します。詳細は「3.8 プログラム設定」を参照してください。
2. カメラの管理を開くには、グラフィック、グリッド、ライブおよびインフォビューのコマンドバーにある **カメラ** 上で右クリックをします。



3. **カメラ** をクリックし、次に **編集** をクリックします。
4. そこから希望のカメラを選択します。全てのネットワーク環境で **2** 使用する録画サーバを選択します **1**。
5. 録画形式 **3** を選択します: MxFFSアーカイブに録画保存されている場合は、MxFFSを使用します。従来の MOBOTIXのフォルダ/ファイル構成で録画保存されている場合は MxFileServer を使用します。



ヒント:

もし現在のシステムには存在しないカメラの録画画像をハードディスクから追加する場合、ローカルパスに録画サーバを設定し、ドラッグ & ドロップで録画フォルダを入力することができます。

3.4.2 プレーヤーを使った検索と再生

プレーヤーを表示するには、ナビゲーションボタンを右クリックし、プレーヤーを選択します。



一般的なプレーヤーのコントロール

録画を検索し、再生するには、再生モード **1** を有効にするか、日付と時刻を選択してから前の画像/次の画像ボタンを使って録画を参照します。また、再生を進める/再生を戻すボタンを使って再生を開始することもできます。再生モードは、最初はイベント録画に設定されています。**2** 全ての録画を再生する場合は、録画全体に切り替えます。**3**

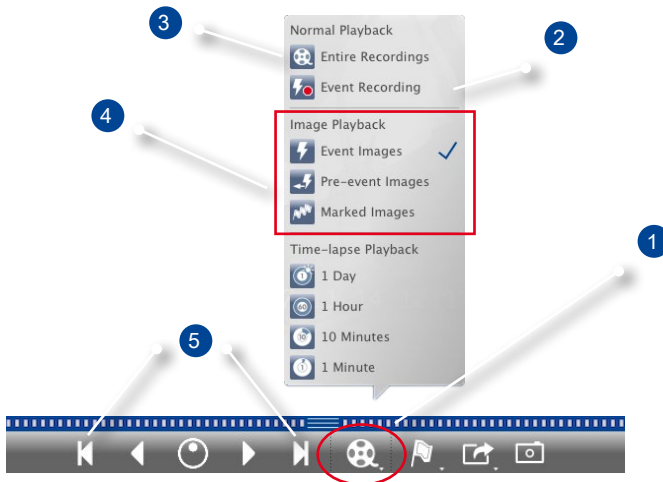


イベント画像の録画を参照する

次のイベントに従って録画を選択できます。

- ・ **イベント画像**: イベント画像のみを表示する
- ・ **イベント前の画像**: 各イベントの最初の録画画像のみを表示する
- ・ **マークしたイベント**: 重要なものとしてマークが付けられた画像のみを表示する

1. プレーヤーでボタンを右クリックし、再生モードを選択します。**4**



2. **⏮** ボタンと **⏭** ボタンを使って録画を参照します。最初は現在のイベント画像が表示され、この2つのボタンで前や次のイベント画像を表示します。**5**

特定の日付と時間の録画を参照する

特定の時間に連続した録画を設定し、その間に発生したイベントをチェックしたい場合などに、時間を指定して検索を実行できます。特定の時間のイベントを検索するには、早送りやコマ送りで再生します。

特定の日付と時間で検索する



1. 表示されている日付と時刻をクリックし、**1** 検索する日付と時刻を入力します。
2. イベント画像が、指定した日付と時刻に最も近いイベント録画に切り替わります。再生をクリックします。

または

1. カレンダースライダをクリックします。**2** 日付と時刻は、スライダの上に表示されます。スライダを動かして、イベント録画を調べたい時間になるべく近い日付と時刻にします。イベント画像が、指定した日付と時刻に最も近いイベント録画に切り替わります。再生をクリックします。

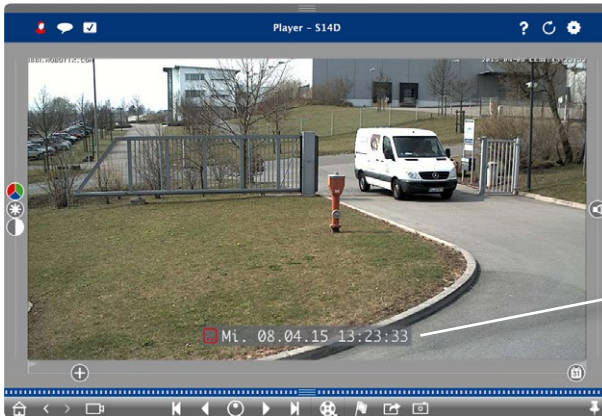
ヒント: マウスポインタをスライダから遠くへ動かすほど、設定の精度が高くなります。



複数のカメラで人物や物体を検索する

ゲートを映し出しているカメラAが、イベントを生成しました。イベント画像がイベントバーに表示され、配達トラックがゲートを通過したことがわかります。このトラックが、カメラBで監視されるエリアも通過したことを確認したいと仮定します。

1. マウスポインタをイベント画像の上に移動して3つのアイコンを表示します。🔍 をクリックしてプレーヤーを開きます。
2. 録画を再生します(録画の最後 **1**)。



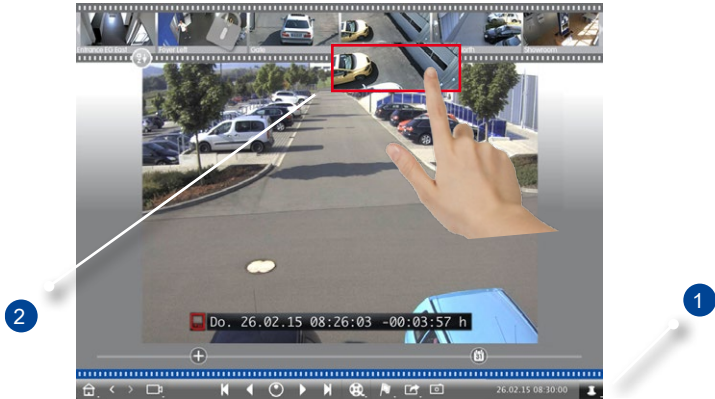
3. カメラバーからカメラBをドラッグして、プレーヤーにドロップします。



4. 再生は、カメラAの録画の直後から自動的に始まります。**2** この操作は、必要な数のカメラについて繰り返すことができます。

時間を指定して複数のカメラを検索する

他のカメラが特定の時間に何かをとらえていないか調べることができます。

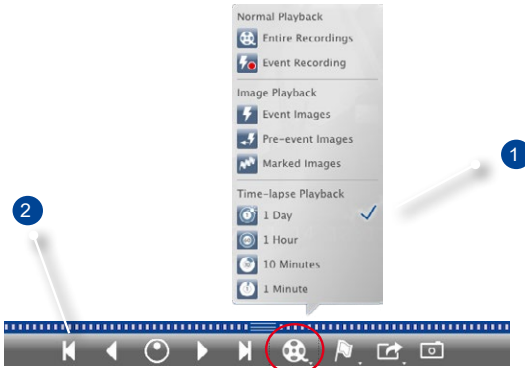


1. 画鋏ボタンを使って参照時間を設定します。**1**
2. カメラバーからカメラを1つずつドラッグ&ドロップします。**2**
3. 各カメラから、指定した時間に最も近い日付と時刻のイベント画像が表示されます。

検索範囲を特定の事故に限定する

カメラが監視する駐車場で、自動車の盗難が発生しました。イベントをできる限り早く特定するため、次の手順を行ってください。

1. 再生モード(🎬)を右クリック(1)に切り替え、間隔(1日など)を選択します。
2. 問題の車が画像に現れるまで、前の画像(2)をクリックします。

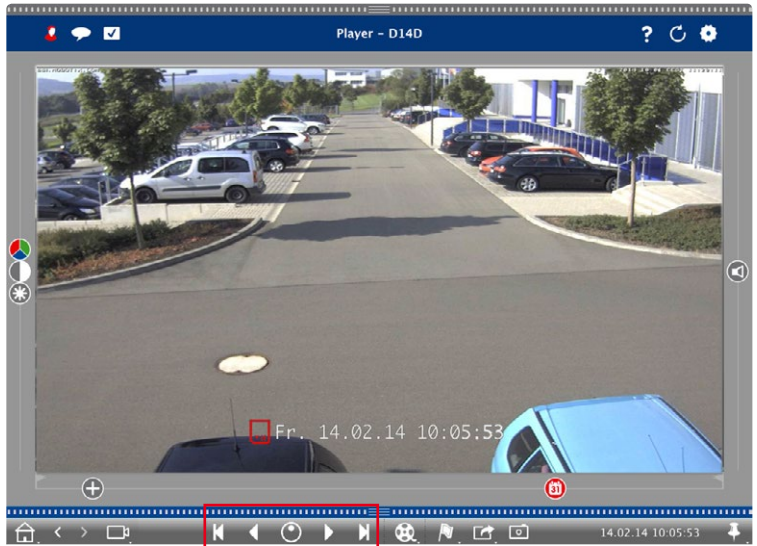


3. 間隔を短くします(1時間など)。(1)
4. 問題の車が画像から消えるまで、次の画像(2)をクリックします。
5. 事故が発生した時間が特定されるまで、間隔を短くして画像を探します。

また、再生を進める/再生を戻すボタンを使って再生することもできますが、この場合は時間の間隔は選べません。



録画を再生する



早送り再生/巻き
戻し再生

再生速度
最大16倍

1画像進む/戻る

ヒント:画像単位で正確に確認する

ある場面を詳細に調べたい場合は、録画を1画像ずつチェックできます。この操作を行うには、再生を停止します(◻ または ▶ をクリックします)。次に2つのボタン ▶ (進む)と ◻ (戻る)を使って、画像を1つずつたどります。

ヒント:再生優先度

カメラを高速再生に最適化するために、再生優先度オプションが初期状態で有効になっています。この設定は、セットアップメニュー > 一般設定 > 再生優先度で変更できます。

3.4.3 グリッドプレーヤーを使った検索と再生

グリッドプレーヤーを表示するには、ナビゲーションボタンを右クリックし、グリッドプレーヤーを選択します。



グリッドプレーヤーを使うと、カメラグループ全体の録画を時刻で同期して検索し、再生できます。



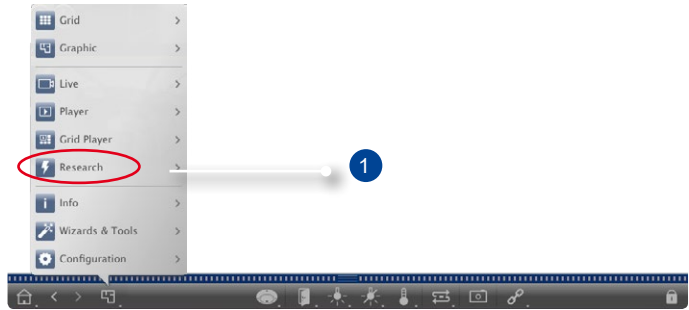
1. フォーカスウィンドウのタイムスタンプ **1** またはカレンダー 슬라이ダ **2** を使って時間を設定します。
2. 目的のカメラグループをグループバーからドラッグ&ドロップします。
3. 全てのカメラの表示が、指定した時間に最も近いイベント画像に切り替わります。カメラ画像の下に表示されるタイムスタンプは、その画像が記録された時刻と日付です。参照時間との差が、右側に表示されます。

ヒント:

グループをグリッドプレーヤーにドラッグすれば、プレーヤーで再生することもできます。元のカメラはフォーカスウィンドウに表示されます。

3.4.4 検索ビューを使った検索と再生

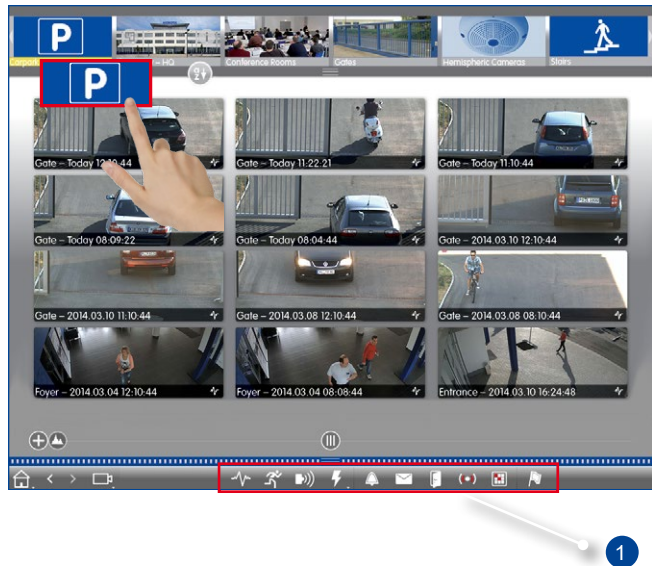
検索ビューを表示するには、ナビゲーションボタンを右クリックし、検索 **1** を選択します。



検索ビューを使うと、1台のカメラまたはカメラグループの全てのイベント画像を検索できます。イベントをタイプ別にフィルターできます。










カメラ/カメラグループのイベント画像を表示する

カメラ: カメラバーから目的のカメラをドラッグして、ビューの表示エリアにドロップします。
カメラグループ: 目的のカメラグループのアイコン画像をドラッグして、ビューの表示エリアにドロップします。



イベントタイプ別にフィルターする

初期状態では、選択したカメラのイベント画像は時系列でソートされます。イベントはタイプ別にフィルターできます。① イベントタイプを有効にするには、各タイプのボタンをクリックします。

- ・ : MxActivitySensorイベント
- ・ : ビデオモーションイベント
- ・ : PIRイベント
- ・ : 環境イベント: サウンド、温度、照明、信号入力
- ・ : 呼び出しイベント
- ・ : メールボックスメッセージ
- ・ : ドア・ステーションイベント
- ・ : 無効なRFIDカード
- ・ : 無効なPIN

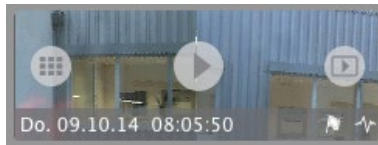
イベントにマークを付ける



イベント画像を参照する際に、画像を右クリックして「重要」マークを付けることができます。プレーヤーやイベントリストで「重要」マークを付けたイベント画像もこれと同じ扱いになります。これらの画像は、検索ビューでまとめて表示できます。



イベントを再生する

各イベントの録画をビューで直接再生できます。マウスポインタをイベント画像の上に移動してください。アイコンが3つ表示されます。



- ・  をクリックすると、録画が表示されます。
- ・  をクリックすると、プレーヤーに切り替わります。

3.5 録画のエクスポート

3.5.1 スナップショットの保存



スナップショット画像は、ライブビューとプレーヤーでは表示中のカメラについて作成することができ、グリッドビューとグリッドプレーヤーでは全ての表示中のカメラについて作成できます。コマンドバーのスナップショットボタンをクリックします。

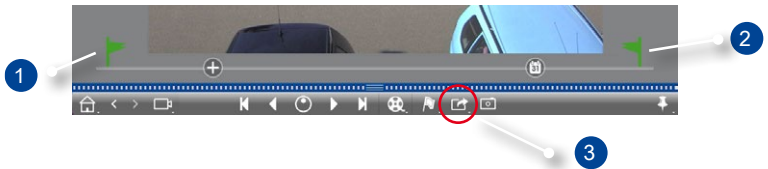
デフォルトで、画像がデスクトップに保存されます。グリッドビューまたはグリッドプレーヤーで作成したスナップショットは、グループの全てのカメラから画像が格納されるデスクトップ上のフォルダに保存されます。スナップショット画像のターゲットフォルダと画像設定を指定するには、メニューでMxManagementCenter > 環境設定 > スナップショットを選択します。

3.5.2 録画のエクスポート

1台のカメラの録画をエクスポートする

プレーヤーを使うと、録画から特定のイベントまたは連続した録画を含む時間範囲を指定してエクスポートすることができます。

1. プレーヤーを開きます。
2. カメラバーから目的のカメラをドラッグ&ドロップします。
3. 使用する録画を探します。
4. クリップの開始位置を指定するため、左側にある緑色の旗をクリックします。**1** エクスポートしたいクリップの最後に到達するまで、録画を再生します。クリップの終了位置を指定するため、右側にある緑色の旗をクリックします。**2**



5. エクスポート **3** をクリックし、MOBOTIXを選択します。
6. エクスポートのダイアログでターゲットフォルダを選択し、ファイル名を入力します。保存をクリックします。クリップがファイルに保存されます。

ヒント:自動インポート

エクスポート後、自動的にインポートします。オプションを有効にした場合は、エクスポートしたクリップがカメラバーに自動的に追加されます。

録画のエキスポート

カメラグループの録画をエキスポートする

グリッドプレーヤーを使うと、録画から特定のイベントまたは連続した録画を含む時間範囲を指定して、複数のカメラからエキスポートすることができます。

1. グリッドプレーヤーを開きます。
2. 目的のカメラグループをグループバーからドラッグ&ドロップします。
3. 使用する録画を探します。
4. 台のカメラの録画をエキスポートする説明した手順で、クリップの開始と終了の位置を設定します。



5. このグループの全カメラをエキスポートするのではなく、エキスポートをしたいカメラのみ選択することができます。まず、エキスポート **3** をクリックしてホールドします。カメラ画像の左上端にチェックマークを含んだ丸いアイコンが表示されます。エキスポートするカメラの画像上にある丸アイコンをクリックして選択します **4**。

注意：フォーカスウィンドウに表示されているカメラの記録は常にエキスポートされます。

6. 台のカメラの録画をエキスポートする説明した手順で、クリップをエキスポートします。1ファイルを作成するのではなく、フォルダが作成され、そこに全てのエキスポートクリップが格納されます。

ヒント:自動インポート

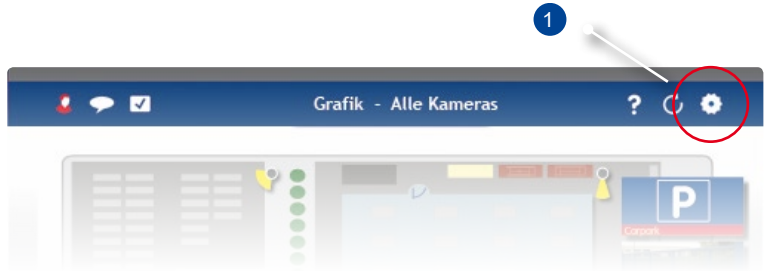
エキスポート後、自動的にインポートするオプションを有効にした場合は、エキスポートしたクリップがグループバーに自動的に追加されます。

3.6 複数のネットワーク環境の使用

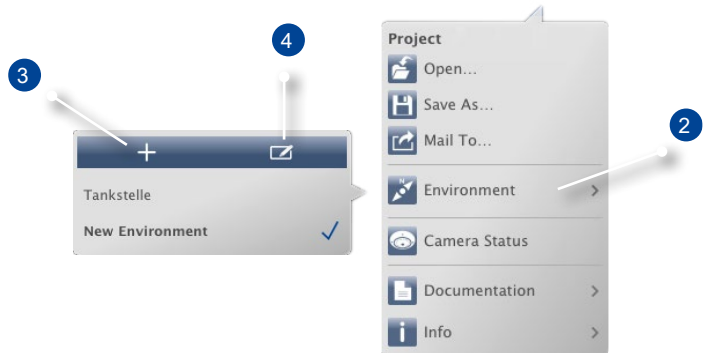
MxManagementCenterを使うと、複数の場所からカメラにアクセスできます。このような使い方をする場合、アクセスしてくる場所によって、使われるネットワークアクセスデータが異なることになります。ネットワークアクセスデータをその都度変更することを避けるには、複数のネットワーク環境を作成して、それぞれにネットワークアクセスデータを設定します。

3.6.1 環境の作成

最初に環境を作成します。次にカメラの管理を使って、各環境のカメラを選択します。ここでは、カメラのDynDNSアクセスも設定できます(カメラを追加する際に指定しなかった場合)。




1. ヘッダーでプロジェクトと環境 **1** をクリックしてから、環境 **2** をクリックします。



2. 追加 **3** をクリックします。環境が、デフォルトの名前「新しい環境」で追加されます。編集 **4** をクリックし、わかりやすい名前を入力してこの名前を変更してください。




3.6.2 ネットワークデータの変更と環境の選択

環境を作成した後で、各環境で使用するカメラを選択し、必要に応じてネットワークデータを調整できます。

1. グラフィックビュー、グリッドビュー、ライブビュー、またはインフォビューでコマンドバーの  を右クリックし、カメラの管理を開きます。



2. カメラ **1** をクリックしてから、編集 **2** をクリックします。使用するカメラを選択します。
3. 目的の環境を選択します。 **3**
4. その環境で使う帯域幅を選択します。 **4**

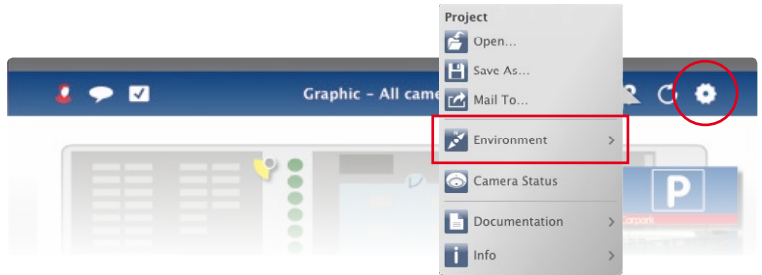
-  高解像度: 画像は、カメラ側の設定を使って転送される転送
-  低解像度: 画像は、指定したフレーム・レート、画像サイズ、および画質で提供される(「プログラム設定」を参照)
-  音声のみ: 画像なし(要求すれば画像を入手可能)、少ない帯域幅で高品質の音声を提供する





環境を選択する

1. ヘッダーでプロジェクトと環境をクリックしてから、環境をクリックします。目的の環境を選択します。



ヒント: フレーム・レートを制限する

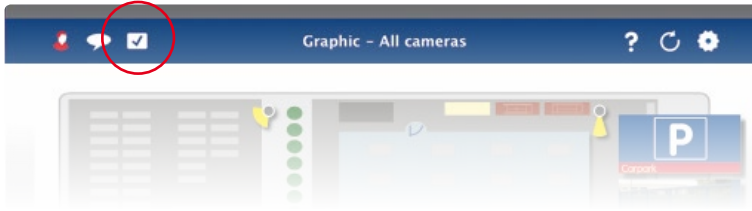
記録された画像の読み込みに時間がかかり過ぎる場合は、フレーム・レートを(たとえば8 fpsに)落とすと、パフォーマンスを向上できます。カメラは、空いているリソースを使って、サイズ、画質、およびフレーム・レートを下げてから画像を生成して転送する一方で、ライブ表示や保存するための画像は標準の設定で提供します。

1. カメラのユーザー・インターフェイスをブラウザに開きます。
2. セットアップメニュー > 画像コントロール > 一般設定 > フレーム/秒をクリックします。
3. アイドル中にフレーム・レートを制限がオンになっていることを確認します。
4. フレーム/秒を最大値に設定します。




3.6.3 帯域幅の一時的な調整

帯域幅を環境に割り当てると、カメラから画像を取得する際に異なる接続速度を指定できます。この設定は、基本的には、映像をライブで流す場合やイベントを検索する場合にどう画像を表示するかを制御するものです。帯域幅を選択すると、画像の品質も変わります。カメラ側の設定を変更しなくても、帯域幅の設定を一時的に変更することができます。

1. ヘッダーで帯域幅をクリックします。



2. ボタンをクリックするたびに、設定値が1つずつ切り替わります。

-  高解像度: 画像は、カメラ側の設定を使って転送される
転送
-  低解像度: 画像は、指定したフレーム・レート、画像サイズ、および画質で提供される(「プログラム設定」を参照)
-  音声のみ: 画像なし(要求すれば画像を入手可能)、少ない帯域幅で高品質の音声を提供する
- 変更なし: カメラの元の設定を使用する

3.7 ドア・ステーションの操作

3.7.1 ドア・ステーションの設定

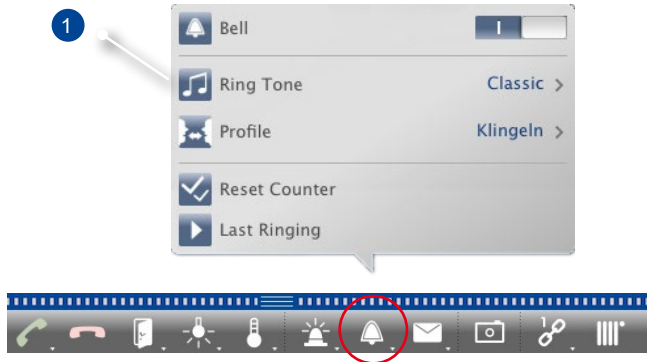
一般に、ドア・ステーションの設定はシステムに追加するときに行います。システムが動作している間でも、ベルの動作やメールボックスの設定を変更できることに注意してください。この操作は、ライブビューのベル設定またはメールボックス設定で行います。変更した設定は、表示中のカメラ画像に適用されます。

ベル設定

呼び出し音を設定する



1. ライブビューで、ベルアイコンを右クリックしてベル設定を開きます。



2. 呼び出し音 ① をクリックし、使用するメロディーを選択します。
3. ボリュームスライダを動かして、使用するボリュームを設定します。

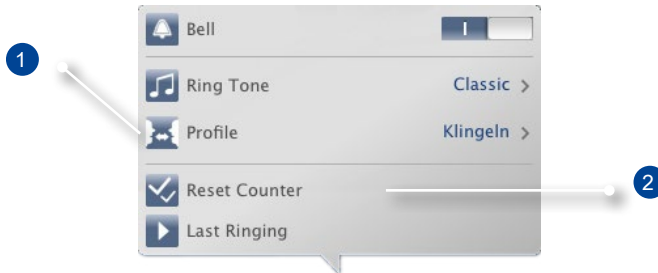
ベル・プロフィールを選択する

ベル・プロフィールは、基本的に、誰かがドア・ステーションで呼び出したときの応答を制御するものです。カメラには、いくつかの定義済みベル・プロフィールが用意されています。

- ・ 呼び出さない: MxMCと他の全てのリモート・ステーションは応答しない。つまり、誰かが呼び出している、一切わからない(視覚的にも聴覚的にも)
- ・ 呼び出し: 誰かがドア・ベルを鳴らすと、音が聞こえる。来客は、メッセージを残すことはできない
- ・ 呼び出しとメールボックス: 誰かがドア・ベルを鳴らすと、音が聞こえる。指定の時間内に応答しなかった場合、ドア・ステーションによって案内音声再生され、来客は伝言を残すことができる

- ・ メールボックス: 呼び出し後、ドア・ステーションによって案内音声が入音声がすぐに再生され、来客は伝言を残すことができる
- ・ アナウンスのみ: 呼び出し後、ドア・ステーションによって案内音声が入音声がすぐに再生される。来客は、メッセージを残すことはできない

1. プロフィール **1** をクリックします。
2. リストで、使用するプロフィールをクリックします。



カウンターをリセットする

ライブビューに表示されるカウンターは、ドア・ベルが鳴るたびに増えます。ドア・ベルの呼び出しに応答するかどうかは関係ありません。カウンターをリセットしておく、呼び出しへの応答に失敗した場合に気が付きやすくなります。カウンターをゼロにリセットする癖を付けてください。カウンターをいったんリセットすると、前回のリセットがどれくらい前のことか通知されるようになります。

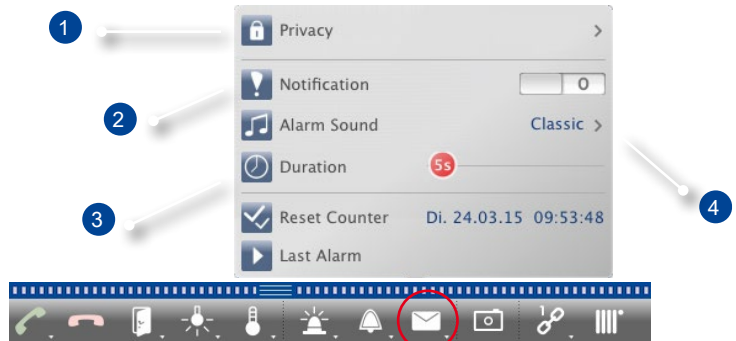
1. カウンターをリセット **2** をクリックします。
2. カウンターがリセットされ、ベル設定ボタンの横にあった表示が消えます。

メールボックス設定

メールボックスを選択する

ドア・ステーションが装備するオプションや設定はさまざまなので、ベル・ボタンが複数ある場合や、MOBOTIXキーパッドモジュールが装備され、連絡先番号が複数ある場合もあります。このようなベルや連絡先番号には、個別にメールボックスが与えられます。対応するメールボックスはリストに表示されます(ベルの名前の下)。

注意: メールボックスで指定した全ての設定は、選択したメールボックスに常に適用されます。これは、新しいメッセージカウンターがこのメールボックスにしか適用されないことも意味します。別のメールボックスからメッセージや録画を取得するには、最初にそのメールボックスを選択します。



- 1 ライブビューで、メールボックスアイコンを右クリックしてメールボックス設定を開きます。
- 2 メールボックス **1** をクリックして、使用するメールボックスをリストから選択します。

各メールボックスのベル・プロフィールを選択して作業を進めます。詳しい手順については、「ベル・プロフィールを選択する」を参照してください。

メールボックスを有効にし、歓迎メッセージを選択する

- 2 メールボックスを有効にします。来客 **3** を迎えるときに再生するメッセージを選択します。

メッセージを有効にする

- 4 来客がメッセージを残せるようにする場合は、メッセージを残すオプションを有効にします。



3.7.2 ドア・ステーションを運用する

呼び出しに応答する

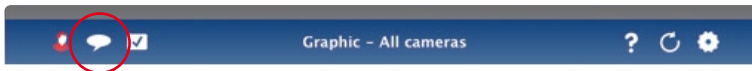
誰かがドア・ベルを鳴らしたことは、いくつかの方法で通知されます。

呼び出し時の通知

アラーム時のメッセージ処理を有効に設定した場合(ライブビュー > アラーム > アラームのメッセージ)、どのビューを使用しているかに関係なく、誰かがドア・ベルを鳴らしたら、通知が表示されます。通知ボタンを使うと、ドアを開けたり ①、通話を始めたり ② することができます。



通知は、一時的に無効に切り替えることができます。ヘッダーで通知をクリックしてください。ボタンの表示が、現在無効になっていることを示すものになります。




イベントバー

通知を無効にした場合でも、誰かが呼び出していることは画面で確認できることに注意してください。イベントバーが緑色に変わるのがそれです。



- ・ ライブビューでは、イベント画像をドラッグしてライブ画像にドロップします。コマンドバーのボタンを使えば、通話を始めたり、ドアを開けたりすることができます。
- ・ グリッドビューでは、イベント画像をドラッグしてフォーカスウィンドウにドロップします。フォーカスウィンドウのコントロール機能を使えば、通話を始めたり、ドアを開けたりすることができます。

- ・ グラフィックビューでは、イベントバーからイベント画像をドラッグして平面/間取り図面にドロップします。小さな一時的なライブ画像が下部に表示され、そのコントロール機能を使えば、通話を始めたり、ドアを開けたりすることができます。
- ・ 他の全てのビューでは、 にマウスポインタを移動してクリックしてグリッドビューに切り替えた後で、イベント画像をドラッグしてフォーカスウィンドウにドロップします。コントロール機能を使えば、通話を始めたり、ドアを開けたりすることができます。

ドアを開ける/照明をつける

ドア・ステーションが正しく設定されていれば、MxManagementCenterを使ってドアを開けたり、照明を付けたりすることができます。フォーカスウィンドウ(グリッドビュー)のコマンドバーにあるボタン **1** と、ライブビューのコマンドバーにあるボタン **2** を使います。

グリッドビュー



ライブビュー

ドア・ステーションの操作

ドア・ステーションイベントを再生する

ドア・ベル録画を再生する

来客に対応できなかった場合は、イベントバーを使って、誰が何時にドア・ベルを鳴らしたのかを確認できます。

1. マウスポインタをイベント画像の上に移動してください。アイコンが3つ表示されます。
2. ドア・ベルの録画をイベントバーで直接表示するには、再生をクリックします。▶
3. 録画をプレーヤーで表示するには、プレーヤーをクリックします。▶

メールボックスメッセージにアクセスする

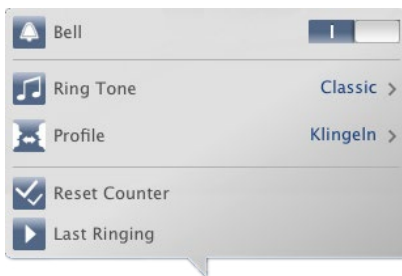
席を外している間に来客があり、メッセージを残した場合は、ライブビューのメールボックスボタンの横にあるカウンターを見るとすぐにそのことがわかります。カウンターの数値は、誰かがメッセージを残すたびに増えます。メッセージをプレーヤーで再生すると、メッセージには「表示済み」のマークが付けられ、カウンターの値が1つ減ります。



ドア・ベルを無効にする

ドア・ベルにわずらわされたくない場合は、特定のベルや連絡先番号を無効にすることができます。その場合、ドア・ベルの呼び出しは、ドア側またはドア・ステーションの1つの側で表示も登録もされません。また、対応できなかった来客について一切の情報が得られません。来客はメッセージを残すことができず、何も録画されません。

1. ライブビューで、ベルアイコンを右クリックしてベル設定を開きます。
2. ベルスイッチ ① を無効にします。

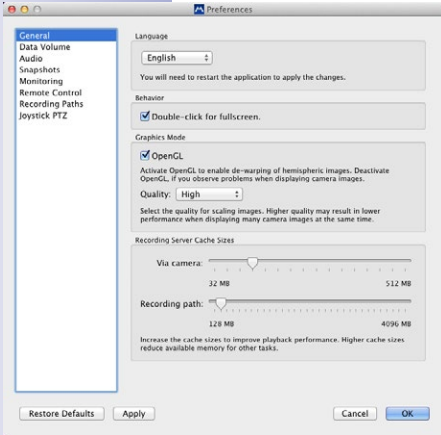


3.8 プログラム設定

3.8.1 オプションの設定とデフォルト値の選択

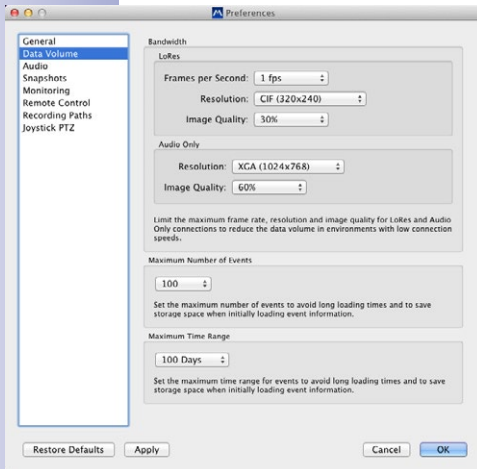
メニューでMxManagementCenter > 環境設定を開きます。

共通設定



- 言語: プログラムの言語を設定します。変更を適用するには、ソフトウェアを再起動する必要があります。
- 動作: このオプションを使用不可にすると、ダブルクリックでメインのモニターや別のモニター上に画像をフル表示しません。
- グラフィックモード: 半球画像を補正する場合、このオプションを使用可にします。機能を使用する条件として、実際に歪み補正を実行するため OpenGL バージョン 2.1 をサポートするグラフィックスアダプタが必要です。グラフィックスアダプタがこのモードをサポートしていない場合や、カメラ画像の表示に問題がある場合などは、OpenGL を使用不可にしてください。
- 録画サーバのキャッシュサイズ: 再生機能を向上するには、再生用の内部キャッシュサイズを設定します。この設定は、カメラ経由または ファイルサーバから直接再生モードの両方に適用されます。ここでキャッシュサイズを設定すると、他の処理で使用される RAM が低減するため、別のアプリケーション性能に影響します。

データ量



- 帯域幅: 複数の環境を使う場合、(セクション 3.4 「複数のネットワーク環境の使用」を参照)カメラからは、異なる画像のサイズ、画質、およびフレーム・レートが取得できます。帯域幅を制限するには、値を「低解像度」および「音声のみ」の接続に調整します。低い値を使うと、データの転送に必要な帯域幅を抑えることができ、システムを接続速度に適合させます。デフォルトの設定値:

- 低解像度: 1 fps, CIF, 30%
- 音声のみ: XGA, 60%

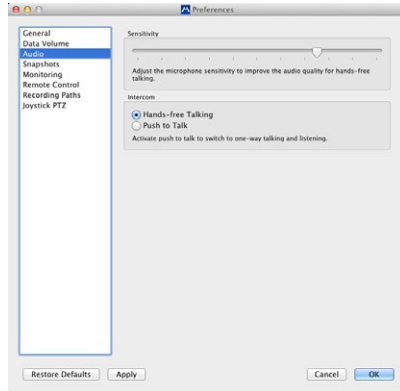
この設定はカメラ設定ではないことに注意してください。MxMCへ転送されるビデオストリームのフレーム・レート、画像サイズ、画質を制限するだけです。カメラ側の設定値より高い値を指定した場合は、カメラ側の値が使われます。

- ・ イベントの最大数/最大の時間範囲: イベントの数と時間範囲を調整すると、MxMCを再起動した後で、イベント情報をどこまで遡って検索するかを指定できます。この設定は、ライブビューのイベントカウンターと、検索ビューのイベントプレビュー画像に適用されます。イベント情報が初めて読み込まれるときに、長時間の読み込み時間を回避し、ストレージスペースを節約することができます。

ドア・ステーションの双方向通信モードを設定する

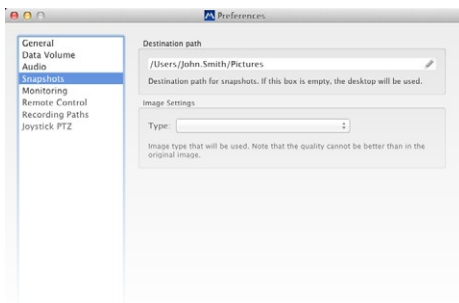
スライダを使って、カメラのマイクロホンからの録音感度を設定します。デフォルトの設定は、双方向通信向けに最適化されています。ドア・ステーションが騒音の絶えない場所や極端に静かな場所がない限り、変更する必要はありません。

ハンズフリー通話と一方通行 (Push to Talk) の通話ハンズフリー通話オプションがデフォルトで有効です。周辺の騒音が大きい場合や、音声接続の問題が解消されない場合は、一方通行 (Push to Talk) の通話の設定を試してください。



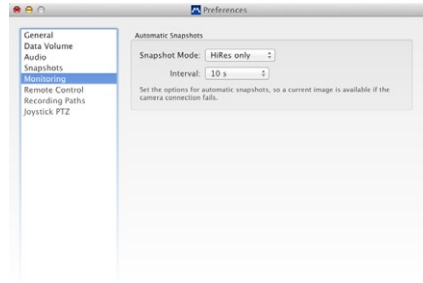
スナップショット

ライブ画像または録画からスナップショットを保存できます。この設定は、MxMCで保存されるスナップショット画像の場所と画質を指定します。フォルダを指定しなければ、ファイルはデスクトップ上に作成されます(セクション 3.6.1「スナップショットの保存」を参照)。



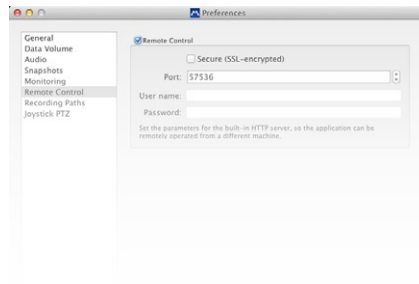
監視

このセクションを使うと、全てのカメラから定期的にスナップショットが自動的に保存されます。新しいスナップショットが作成されると、そのカメラの前のスナップショットが上書きされます。カメラとの接続に障害が発生した場合でも、かなり最近のスナップショットを見ることができます。



リモートコントロール

MxMCは、HTTP要求を使って他のプログラムからリモート制御できます。この機能を使うには、機能を有効化してから適切なポートを設定する必要があります。



録画パス

プログラムは、次の 2通りの方法を使用して保存された画像にアクセスします:カメラ経由 (リモート再生) によるアクセス、または録画画像が保存されたファイルサーバに直接アクセスします。直接録画画像にアクセスする場合は、録画パスを作成してカメラに割り当てます。カメラに複数の録画パスを定義して割り当てることができます (カメラの管理 > カメラの設定)。

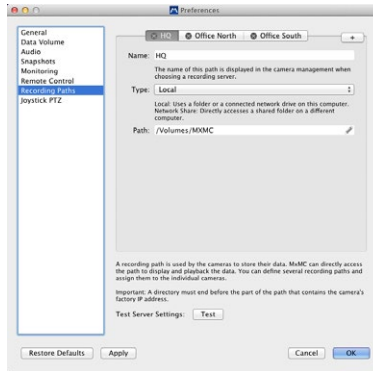
名前

パスの名前は、録画サーバを選択する際にカメラの管理に表示されます。

タイプ

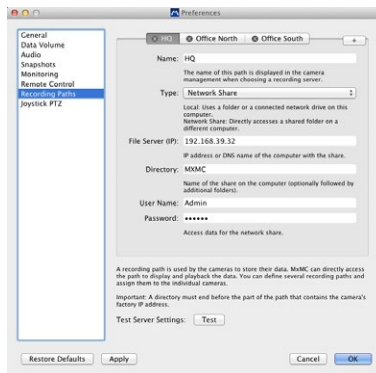
- ローカル:

この PCまたは接続されたネットワークドライブにローカルフォルダがあります。フォルダパスを手動で入力するか、テキストボックスをドラッグ & ドロップ、またはフォルダを選択することができます。
 パス: パスはカメラの工場出荷時 IPアドレスを含むフォルダの前で終了します。



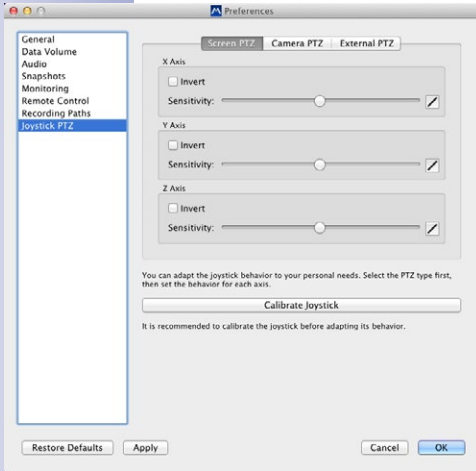
- ネットワーク共有:

プログラムは異なるコンピュータ上の共有フォルダへ直接アクセスします。これには、コンピュータ、フォルダ、そしてアクセスデータの入力が必要です。ファイルサーバ (IP): 共有する PCの IPアドレスまたは DNS名。
 ディレクトリ: PC上の共有名 (必要に応じて追加のフォルダが続きます)。重要: パスはカメラの工場出荷時 IPアドレスを含むフォルダの前で終了します。
 ユーザ名/パスワード: ネットワーク共有にアクセスするためのアクセスデータ。



ジョイスティック PTZ

各要件に合わせてジョイスティックの動作が調整できます。まず始めに PTZタイプを設定し、次にそれぞれの軸の動作を設定します。



PTZタイプ

- ・ スクリーン PTZ: PTZアクションはアプリケーションで実行します。これは、現在のライブ画像で表示されている画像部分でのみ編集されることを意味しています。そのため、ズームをしても現在のカメラ画像の録画には影響しません。
- ・ カメラ PTZ: カメラ上でズームが行われるため、録画に反映されます (フル画像録画の場合を除く)。
- ・ 外部 PTZ: 別メーカーのカメラを使用する場合は、このダイアログでジョイスティックの動作が設定できます。

軸

- ・ X軸: 水平移動
- ・ Y軸: 垂直移動
- ・ Z軸: ズーム

反転

ジョイスティックを使用して、軸のアクションを反転するオプションです。

感度

画面の反応が遅い場合は感度を上げます。反応が早すぎる場合には、感度を下げます。

数列

ボタンをクリックすると、ジョイスティックの動作の数列が変更されます。デフォルト設定は、直線数列です。

- ・ 直線: デフォルト設定
- ・ 対数: この数列は、小さな入力動作に対するジョイスティックの感度を低減するために使用します。
- ・ 指数: この数列は、小さな入力動作に対するジョイスティックの感度を向上するために使用します。

ジョイスティックの調整

動作調整の前に、ジョイスティックの調整を行ってください。調整で基本的なジョイスティックの設定が決まります (動作と速度)。

3.8.2 プログラム設定の保存と読み込み

「プロジェクト」を保存すると、レイアウトを含め、カメラおよびカメラグループの全てのプログラム設定が保存されます。このようなプロジェクトを電子メールで渡す場合、各カメラの暗号化アクセスデータ(ユーザ名とパスワード)を含めるかどうかを選択できます。アクセスデータを渡さない場合、ユーザ名とパスワードは各カメラで手動で入力する必要があります。



プロジェクトを保存する

1. ヘッダーでプロジェクトと環境をクリックします。
2. 名前を付けて保存をクリックします。
3. カメラアクセスデータを含める場合は、アクセスデータを含めるチェックボックスをオンにします。保存をクリックします。



プロジェクトを送信する

1. ヘッダーでプロジェクトと環境をクリックします。
2. ～にEメールを送信するをクリックします。
3. カメラアクセスデータを含める場合は、アクセスデータを含めるチェックボックスをオンにします。OKをクリックします。ファイルは、新しい電子メールに自動的に添付されます。電子メールを送信します。



プロジェクトを開く

1. ヘッダーでプロジェクトと環境をクリックします。
2. 開くをクリックし、プロジェクトファイルを選択します。プロジェクトを現在のプロジェクトに追加するか、それとも現在のプロジェクトと置き換えるかを選択します。



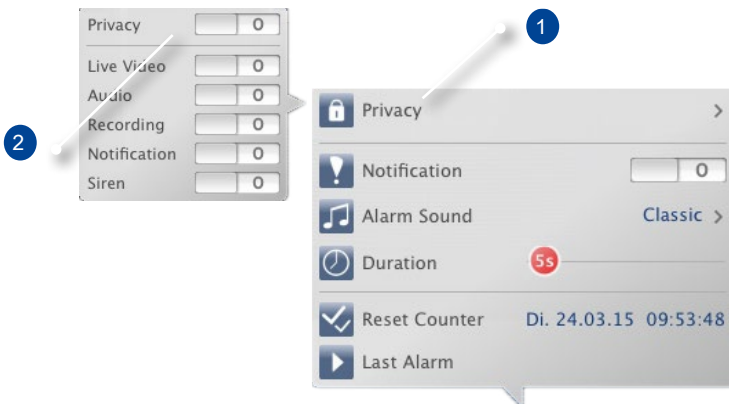
電子メールで受け取ったプロジェクトを開く

1. 電子メールの添付ファイルを開きます。
2. MOBOTIXに開くをクリックします。MxManagementCenterが自動的に開きます。プロジェクトを現在のプロジェクトに追加するか、それとも現在のプロジェクトと置き換えるかを選択します。

3.8.3 プライバシーモードの有効化/無効化

カメラの特定の機能を一定の期間ロックする、つまり無効にすることができます。この設定はプライバシーモードの有効化で簡単に行えます。このモードは、手動で無効化しない限り、24時間有効です。

1. ライブビューで、アラームアイコンを右クリックしてアラーム設定を開きます。
2. プライバシーをクリックします。①



3. プライバシーモードに入るときにブロックする機能を選択します。プライバシースイッチを有効にします。②
4. このモードを停止する場合は、プライバシースイッチを無効にします。プライバシー設定は保存され、このモードを次回使うときに復元されます。

注意: プライバシーモードのアイコンがカメラ画像の右上隅に表示される場合、このモードが有効になっています。





ドイツのクラフトマンシップが息づくイノベーション

ドイツの企業MOBOTIX AGは、ネットワーク・カメラ技術のパイオニアとして知られます。独自の着想による分散アーキテクチャの採用で、高解像度ビデオ・システムのコスト・パフォーマンスを向上することに成功しました。

MOBOTIX AG · D-67722 Langmeil · 電話: +4963029816-103 · Fax: +4963029816-190 · sales@mobotix.com